

宗教原論

013611-000-4

81-613

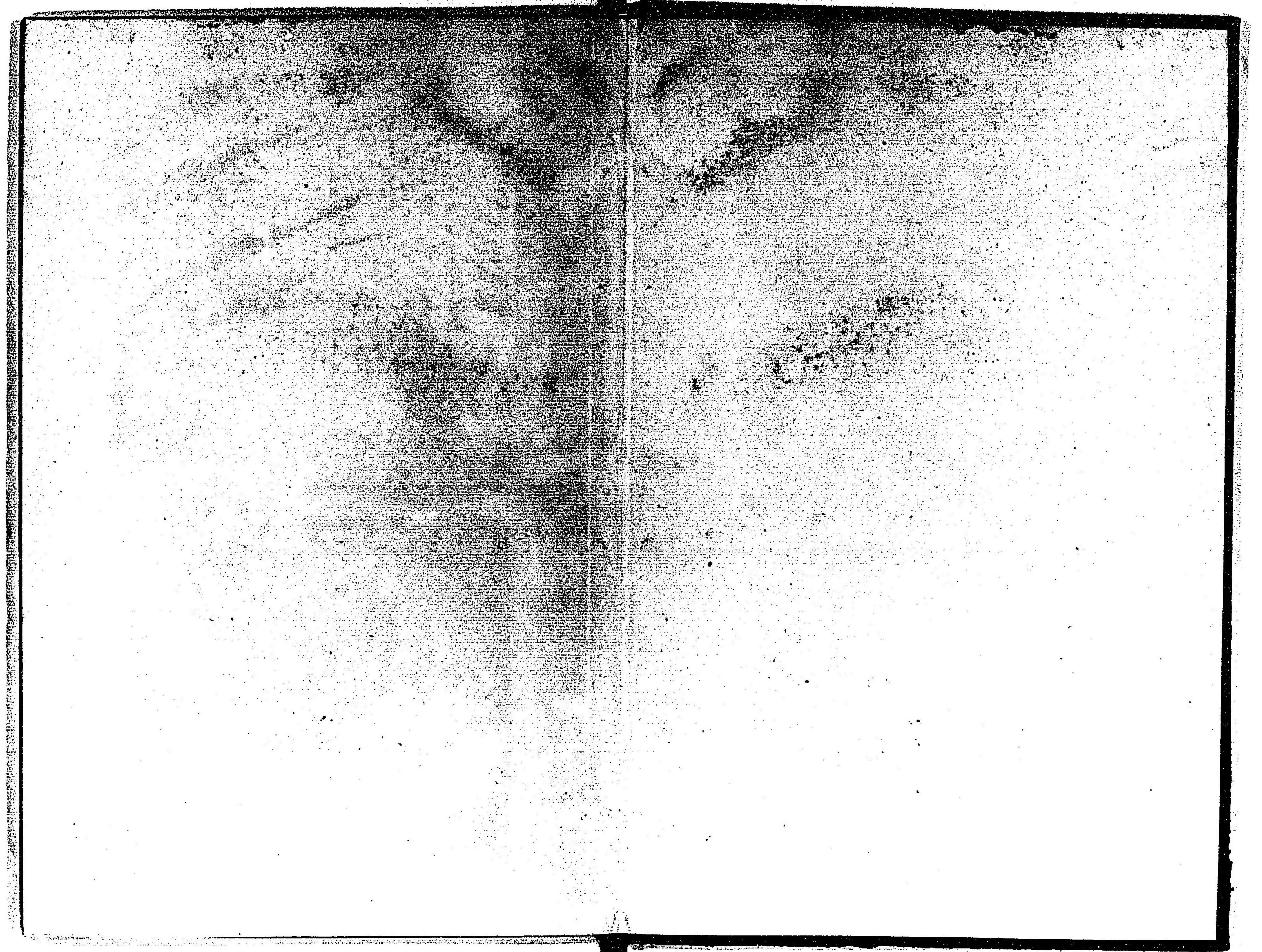
宗教原論

小野 藤太(童真) / 著

M34

ABA-0080





宗教原論

81-613



命無限體用。我賴加
論。一辨妄見真。二獎

漸策退。三庶幾有無全融化。

誓高識劣或誤焉。先賢後哲

幸成矣。



井上博士の手翰

尊書拜見不治之難症に御罹被成候由不幸無此上事と奉存候御高著は小生校訂之上序文をも附し出版爲致可申候君之肉体は如何様に相成候ても君之精神は此書に存し可申候得は聊御慰籍被成度候尙人生は長短有之候得共天地之大より之を言へば均しく一瞬のみ要は迷悟之二途に御座候苟も悟入候得は一時一刻も百年之醉生夢死に相優り申候草々不宣

十一月十六日

井上哲次郎

頓首

小野藤太様

未完のものに博士の序文を掲ぐるは失當の恐あるを以て大成の上他の六博士の批評序文と俱に之を載することとはなしぬ

造論并發刊の由來

二

著者天性愚昧、渺たる一介の野夫、豈好んで書を著すと謂んや、唯々幼より讀書の癖ありて、一日書を手にせざれば忽ち頭痛の岑々たるを感ず然れども常に活計の爲めに勞して、未だ身を讀書に專にするを得ず、單に業務の餘暇、若くは睡眠の時間を割ひて以て、僅に此奇癖を癒すに汲々たりき。而して又其書籍を購ふの資なきや、或は師友の書庫に籠居し或は遂に圖書館及貸本屋の好得意たるを以て、自ら甘するを常とするに至りし。抑々著者の少時、最も好む所は儒書及歴史なりしが、後一轉して老莊を尊信し、既にして又再轉、韓墨揚等を嗜好せり、後語學傳習の便を計りて基督神學を講せしが、爲めに著者の思想界に一種の疑惑を發生しけり。而して其法政の學を研究するや、忽ち一個の俗漢と化し、論壇に政界に、如る横議を試みたりしも、幾もなくして其眞に厭ふべきものあるを察し、爾來潛心哲學の研讀を力め、從て亦多くの佛典を繙き、其記して讀書日記に在るもの、實に三百七十八部、三千五百七十五冊に及べ

り、而して其疑あるや、毎に飲食を斥け、跣跣默念すると、或は五日、或は七日、之が明解を得ざれば敢て止まず、茲を以て賦性の愚昧なるに關らず宇宙、人生、一切の問題に對し、著者想應の見解と、安心を得るに至れり既に此見解と安心とを得れば、之を世に公にして我同胞に告ぐるは、蓋し吾人人生の責務なるべきを憶ひ、敢て其淺劣を顧みず、遂に茲に之を發刊することとはなしぬ。然れども著者は是を以て自ら得たりとする者にあらず、又以て茲に甘する者にもあらず、尙ほ將に日夕鞭撻を加へ異日の大成を期して、再ひ之を我同胞に訴へんことを誓ふ。

今や東西俱に教界の紛亂を極め、人心の危惑殆ど謂ふべからざるものありて、精神界に於ける、革新の機は既に其緒を解けり。苟も志ある者、豈黙して止むの秋ならんや。著者愚昧、元より其器に非ざるも、幸に生命を聖世に安ずることを得る、君國の鴻恩に對して、悠々徒視すべきに非ざるを憶ひ、謹んで先賢の教に遵ひ、又大に後哲の協力を請ひ、聊か報効の一端を圖らん爲め、敢て卑見を公にするの止むを得ざるに至れり。我同

三

胞幸に其淺劣を符むることなく。賢哲の士、希くば之を教へ、之を正されんことを。

宗教論は明治三十一年春之が起稿に着手し、其三十三年秋、漸く之を脱稿せり。全論分ちて五編となす、曰く原論、曰く各論、曰く法論、曰く調和論、曰く將來の宗教、即ち是れなり。而して今や其第一編なる宗教原論を發刊して之を世に公にし、以下の四編も亦校訂を加へて、順次之を發兌せんとす。

宗教論の著作に關して、神佛各教の碩學大家が幾多の示教を與へられたるは、著者の深く感謝する所なるが、特に其各論の編述に當て、彼の唯識因明の遠學を以て知られたる、高野山金剛三昧院主石原僧正が、特別の便宜と、教示とを與へられしは、永く感銘して忘るゝ能はざる所なりとす。

宗教論の脱稿するや、之を出版せんと欲して、南山より歸京の途に就きしも中途災ありて、其志を果す能はず、由て書を井上博士に呈し、先づ其

第一編宗教原論を發行せんことを乞請せしに、博士は快く之を諾せられ上掲の返翰を賜はられき。既にして災解け今茲一月無事入京しければ、幸に博士を煩すことなく、自ら之を出版することを得るに至りしも、著者が博士より幾多の垂教を辱ふしたるの光榮と、又博士が後進の誘導に熱心なる、將た斯道に忠實なるは著者の深く感佩敬服に堪へざる所りとす。

本編即ち宗教原論の校訂出版に關しては、専ら大日本中學會々長穗波徳明君の力を借りたるものにして、君は國家教育の發達を圖かるに熱心なると同時に、彼の有名なる英文及和文の『征清戰史』の著者として、又國家公的に於ける、精神的事業家として、世に知られたるのみならず、特に我東洋宗教界の外護者として、宗教上幾多の抱負を有するの士なるが、著者の本書を世に公にせんとするに當り、君は大に之を賛成し、莫大の補助と、一切の便宜とを與へられたり、其高配と厚誼とは著者の深く感銘して忘るゝ能はざる所なりとす。

第一編原論は、嚴島彌山の絶頂に在て猪鹿と戯れつゝ之を草し、其第二編各論は、南山の雪中護摩の烟りに煖りつゝ之を稿し、其第三編法論は京都に在て嵐山の花を眺めつゝ極めて平穩の境界に之を筆し、其第四編調和論は南洋の孤島に野草を捨ひつゝ月夜之を草し、其第五編將來の宗教は、中華洞庭の湖畔、孟德横塑の邊に於て之を物せり、四年の日月、三國五所の流轉、以て漸く之を成す、今其由來を序するに當りて、著者豈今昔の感なからんや。

東京礫川茅舎に於て

明治三十四年猛春

著者 謹識

宗教原論

目次

第一章 宗教ノ範圍

- 第一節 宗教ノ意義
- 第二節 宗教ト科學トノ區別
- 第三節 宗教範圍ノ伸縮
- 第四節 宗教ト國家トノ關係

第二章 宗教心

- 第一節 宗教心ノ起源
- 第二節 宗教心ノ眞義
- 第三節 先天論後天論

第三章 宗教ノ客體

- 第一節 神ノ意義

第二節 無限解釋上ノ異說

一、人格神說

二、勢力說

三、唯物說

四、唯心說

五、調和說

第四章 宗教ノ主体

第一節 人ノ意義

第二節 轉化論

第三節 因果論

第四節 創世論

第五節 生死論

一、備道說

二、有神說

三、進化論的倫理說

四、轉生說

第六節 靈魂論

第五章 宗教主体ト宗教客体トノ關係

第一節 神人互具說

第二節 自力說他力說

第三節 繪木說

第六章 宗教主体ト宗教客体ト同化ノ方法

第一節 解脫論

第二節 靈化論

第七章 宗教教師

第八章 宗教ノ組織

第九章 結論

宗教原論

第一章

宗教ノ範圍

第一節

宗教ノ意義

宗教トハ、無限(神)ト有限(人)トノ性質、及其相互ノ關係ヲ明ニシ、以テ有限ノ人(主體)ノガ、無限ノ神(客體)ニ進化スルノ方法ヲ講ズルモノナリ。

現今ノ宗教ニテハ、此定義ニ合セザルモノ、若クハ此定義以外ニ領域ヲ有スル汎濫ノモノアルマケレドモ、是等ハ真正ニ宗教ノ本義ヲ得タルモノニアラズ。宗教ノ本分眞義ハ、當ニ此定義ノ如クナラザルベカラズシテ、又此定義ノ如キヲ以テ足レルモノトス。

此定義ハ、各種ノ方面ニ觀察點ヲ有シ、左ノ如キ種々ノ意義ヲ含蓋セリ
一、宗教ハ、有限ノ人ガ、無限ノ神ニ進化スル一切ノ方法ヲ指スモノナレバ、宗教ノ客體ハ無限ノ神ニシテ、其主體ハ有限ノ人ナリ。

小野童眞著

左レバ神ノ性質、及神ト人トノ關係ヲ説明スルニアラザレバ、宗教ハ成立スベカラズ、而シテ神、即チ無限ヲ説明スルニハ、一切、即チ宇宙ヲ解釋セザルベカラズ、宇宙ヲ解釋スルニハ哲學ノ力ニ依ラザルヲ得ズ、然レバ哲學ハ、宗教々理ノ設定ニ最モ必須ノモノニシテ宗教ノ根底ハ、全ク哲學ニ在リト謂フベシ。次ニ又宗教ハ、有限無限即チ人ト神トノ關係ヲ論ズルモノナレバ、宇宙ノ全体ハ、直ニ其目的物トナルヲ以テ、宇宙ニ於ケル一切ノ活動ヲバ、悉ク之ヲ宗教動作ト爲スコトヲ得。是レ則チ宗教ヲ最モ廣義ニ解セシモノナリ。

宗教ノ根底ハ、哲學ニ在リトスレバ、其哲學的解説チ有セザル教法ハ、非理ノ信仰チ勸ムルモノニシテ、之ヲ邪法、迷教ト云フコトヲ得ベシ。

二、人ガ神ニ進化セントスルハ、即チ人ノ慾望ナリ、故ニ宗教ハ、又個人ノ心理上ノ現象、所謂慾望ノ反影ナリト云フコトヲ得ベシ。凡ソ人各自現在ノ所有ヨリ、多且ツ大ナルモノヲ得ント欲スルハ其常情ナリ。而シテ此等執情ノ最高度ニ伴ヒテ起レルモノハ則チ宗教ナ

リトス。

夫レ人ハ宇宙ノ現象、即チ天地ノ變異、社會、家庭等、自己以外ノ一切ノモノニ對シ、自己ノ有限不自在ヲ感ズルコトアルト同時ニ、自己ノ現有力以外ニ、無限自在力ノ存在ヲ認定シ、若クバ之ヲ建設ス。人、既ニ自己以上ノ有力ナルモノアルコトヲ認ムルトキハ、直ニ之ニ依頼シ、之ト同化センコトヲ望ムハ、蓋シ必然ノ情勢ナルベシ、然ルヲ若強ラ此希望ヲ厭抑又ハ放棄セシメントスルコトアランカ吾人ハ、遂ニ不安失望ニ沈淪シ、人生ノ安全ヲ阻害スルニ至ラン。今之ヲ換言スレバ、凡ソ宗教ハ、人類ヲ安全ナラシム必然ノ勢ニ驅ラレテ自ラ發生セルモノト云フコトヲ得ベシ。故ニ宗教ハ、其主觀ニ在リテハ、個人ノ慾望、客觀ニ在リテハ人類生存ノ必要ヲフ兩面ヲ具スルモノニシテ、又其慾望ト必要トハ、人ニヨリ、時ニヨリ、所ニヨリテ自ラ異ナルモノナレバ、宗教ノ數多ナルモ、教派分岐ノ因モ、信教自由ノ理モ、全ク茲ニ胚胎セリ。

三、宗教ハ、固ヨリ個人ノ慾望ニ起因セリト雖モ、亦人類生存ノ安全ヲ保持増進スルニ欠クベカラザル以上ハ、勢ヒ一方ニ數多ノ種別アルベキト同時ニ、又他ノ一方ニハ人類通有ノ條件ヲモ具セザルベカラザルモノトス。

以上ヲ概括スレバ、則チ宗教ハ、宇宙ヲ解釋スルニ足レル哲理的根據、又個人ヲ満足セシムルニ足レル信條、及人類共通のノ定規ナカラザルベカラザルナリ。

第貳節 宗教ト科學トノ區別

通俗ニ哲學ト宗教トヲ區別シテ、哲學ハ道理ニ由リ、宗教ハ信仰ヲ基トスルヲ以テ異ナレリトナス。此區別ハ、解釋ノ如何ニ由リテ當否ヲ生スベシ。今吾人ノ見解ニ由レバ、道理ニ由ラザル信仰ハ、妄信ニシテ真正ノ信仰ト道理トハ、必ず相伴フモノナルガ如ク、信仰ヲ起スニハ道理ナカ
ルベカラズ、道理明ナレバ、信仰ハ之ニ從フテ起ルモノニシテ、信仰ノ一
面ニハ必ず道理アリ、道理ノ半面ニハ必ず信仰ヲ具ス。左レバ道理ト信

仰トハ、其根源各別ナルモノニ非ザルナリ。然レドモ、之ヲ其外良ニ就テ論ズルトキハ、道理ハ知ナリ、信仰ハ行ナリ、哲學ハ理論ニシテ、宗教ハ應用的ノモノナルヲ以テ、其差異、并ニ各自ノ本領トスル所、自ラ明ナリトス。

抑々理論ヲ知ラザルモ、亦能ク應用ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ、其宗教的効果ヲ収ムルニ於テハ、強テ哲理ヲ要セザルコトアルベキモ、宗教ノ組織ニハ、哲理ヲ基礎トナサザルベカラザルコト、恰モ理化學ノ各種ノ工業ニ於ケルガ如シ。故ニ宗教ノ方面ヨリ觀レバ、哲學ハ宗教内ニ包含シ哲學ノ方面ヨリ觀レバ、宗教ハ其一部ノ應用ナリト云フコトヲ得ベシ然レドモ、各自ノ本領トスル所ハ、決シテ相悖リ相犯スベキモノニアラザルナリ。

又倫理ト宗教トノ區別ハ、二者共ニ人類ノ生存ヲ圓滿ナラシメントスルノ趣旨ニ於テ相似タルモノ、如シト雖モ、倫理ノ真正ノ領域、本分ナルモノハ、元來人ト人、及人ノ積ナル社會トノ關係ヲ明ニスルニ在レバ

有限相對界内ノ交渉ニ止マリテ、無限絕對ノ事柄ニ干與スルノ要ナク且ツ倫理ハ自他ノ中ニ於テハ他ヲ主トシテ自ヲ伴トスルヲ自然ノ勢トスルモ、宗教ハ之ニ反シテ、自ヲ主トシテ他ヲ伴トス。而シテ其區分ハ左ノ如シ

倫理—人ト人トノ關係—有限相對ノ關係—對他兼對自
宗教—人ト神トノ關係—無限絕對ノ關係—對自兼對他

宗教ト法政トノ區別ハ、最モ明白ナル所ニシテ、法政ハ國家ト人民、又ハ國家ト國家(若クハ私法ニ於ケル惟利關係ノ個人相互)ノ關係ヲ明ニシ、其目的トスル所ハ國家ノ生存ヲ安全ナラシムルニ在リテ、他律的權力ノ活動ヲ主トスルモ、宗教ハ之ニ反シテ、或ル形式ニ於ケルノ他、其實質ニ於テ國家ナル境界ヲ認メズ、從テ又他律的ナラズシテ自律的ヲ主トス
夫レ平等門ノ上ニ立チテ觀測スルトキハ、宗教モ、倫理モ、法政モ、均シク哲理ノ應用ニシテ、均シク國家、及人類ノ安全ヲ保持増進スルニ必要ナルモノナルハ同一ナリト雖モ、亦差別觀ニ由ルトキハ、各自ノ本領ト其

傾向トハ、各々相異ナリテ、互ニ廣狹寬嚴等ノ差アルモノトス。既ニ又其差異アリト雖モ、而カモ相賴リ相扶ケテ、相互主伴ト爲リ、以テ其目的ヲ確達スベキモノナルヤ勿論ナリ。

宗教ノ本分—個人ノ安全—個人本位
倫理ノ本分—社會ノ安全—社會本位
法政ノ本分—國家ノ安全—國家本位

(後段参照)

此他各種科學ト、宗教トノ區別ハ、自ヲ推シテ知ルコトヲ得ベシ。

第參節 宗教範圍ノ伸縮

宗教ノ經歷ヲ通觀スルニ、人類、國家ノ發達ト相追隨シテ各宗教、始メ同一ノ經過ヲ爲セリ。今其經歷ヲ初中終ノ三期ニ分チテ、之ヲ略述センニ。初期ハ、宗教ノ外形上ノ勢力最モ盛ナル時代ニシテ、政治、學術、其他一切ノ社會的事業ヲ悉ク、宗教ノ手中ニ掌握シ、所謂政教混合、教學雜揉ノ期トス。中期ハ、政教先ツ分離シ、學術亦別立セントシテ互ニ競爭搏闘

ヲ選フシ、其間ニ於テ、双々共ニ發達進歩シ來レリ。終期ハ、政治、哲學ハ固ヨリ、教育、倫理モ、亦悉ク宗教ヨリ分立シ、各々其領域ヲ守リ、敢テ相犯スコトナキト同時ニ、又互ニ融和致一ノ餘裕ヲ其間ニ存シ、相互能助所助トナリテ、均シク同一方面ニ開展スルモノノ如シ。

夫レ政治機關、及社會道德ノ發達ニ從ヒ、宗教監督ノ事業ハ、其範圍漸次ニ縮少シ、慈善、衛生、警察、教育ノゴトキハ、之ヲ宗教ノ手ヨリ、國家、若クハ社會ニ奪ヒ去ルニ至レリ。蓋シ是等ノ事業ハ、本來國家ノ職分ナルモ、國家ノ機關發達セザリシガ故ニ、宗教ハ暫ク之ヲ代理セシモノニ過ギズ元來宗教ハ、自律的ニシテ他律的ナラザレバ、以上ノ行動ハ其適當ノ職分ニ非ラザルヤ明ナリ。然ルニ國家ハ、之ニ反シ所謂強制權アルヲ以テ是等ノ職分ヲ全ウスルニ於テ至便ナルモノトス。斯ク宗教ガ、國家ノ代理タル他律的行動ヲ、其本職タル國家ニ還附スルニ從ヒ、宗教ノ活動範圍縮少セルガ如シト雖モ、是レ自ラ雜ヲ除キ眞ヲ培フモノニシテ斯クテコソ宗教ハ、其本分ニ還リ、真正ノ自律的トナリテ、其目的ヲ全ウシ得

ルニ至ルモノト謂フベケレ。


又學術ノ進歩ニ從ヒテ、一切ノ科學ハ漸次、哲學的ト爲リ、哲學ハ、又却テ宗教的ト爲ルニ至ル。故ニ道德ノ哲學的トナルニ從ヒ、哲理的基礎ニ立ナルノ宗教ト倫理トハ、茲ニ復々互ニ相接近融和シテ、社會ノ倫理制度ハ益々完全ト爲リ、隨テ一切ノ社會生活ガ、倫理的生活ト爲ルト同時ニ宗教道德的ニ化シ、總テノ發達ノ終局ハ、悉ク宗教的界内ニ歸入スルニ至ラン、是吾人ガ先キニ、同一方面ニ開展スト云ヒモノ、即チ是レナリキ。

若シ又之ヲ倫理ノ方面ヨリ觀測セハ、或ハ悉ク倫理的界内ニ歸入スト云フベキ歟。

左レバ、文明ト俱ニ宗教ノ表面的、顯動的領域ハ極メテ縮少セラレ、從テ又僧侶、教師、寺院、教會ノ如キハ、大ニ其必要ヲ減スベキモ、其裏面ニ於ケル實質的ノ活動力ハ、益々擴張開展シテ、人世一切ノ規範ハ、全ク宗教的

(即チ無限ノ方面ニ)トナルニ至ルベシ。

第四節 國家ト宗教トノ關係

夫レ宗教ノ實質ニハ、國家ヲフ區劃ヲ認メズトスレバ、宗教ナルモノハ、彼ノ國家ノ上ニ立チ、國家ナル領域ヲ無視シ得ベキモノナルヤ、否ヤ、換言スレバ、宗教ト國家トノ力ハ、孰レガ強キカトノ問題はレナリトス。此問題ヲ解スルニハ、先ヅ豎横ノ義ヲ以テ之ヲ判スベシ、即チ國家ハ豎ニ深ク、宗教ハ横ニ廣クシテ、其互ニ衝突(即チ上圖ノ交叉点)スルガ如キコトアル場合ニハ、其衝突点ニ於ケル部分ハ、固ヨリ其深キモノニ吸収セラル、ハ自然ノ條理ナリ。

又國家ヲ以テ團體ノ個人、或ハ之ヲ個人ノ全體(人類ノ全体ニ)トシテ觀察スルトキハ、其國內ニ於ケル一切ノモノハ、其國家主權ノ下ニ歸服スベキハ勿論ニシテ、宗教ハ、必竟、一個ノ國家ノ分子、或ハ機關ト爲リテ、其主權ノ支配ヲ受ケザルベカラザルコト明ナラン。是レ彼ノ個人ニ於ケル信教自由ノ理ト自ラ相同ジトス。然レバ、國家ハ、宗教ノ要素タル個人信仰ノ條件ニテモ、人類通有的定規ニテモ、苟モ其國家ノ目的生存ヲ害スルモノト認ムル以上ハ、之ヲ其國內ニ於ケル宗教ノ内包ニ存在スル

コトヲ禁止スルヲ得ベキノミナラズ、斯ノ如キ宗教ハ、全然之レヲ排斥スルコトヲモ得ベキモノナリ。蓋シ國家ノ目的ヲ害スルハ、即チ個人、及人類ノ生存ヲ害スルモノニシテ、延キテ以テ宗教自己ノ目的ヲモ誤ルモノナレバ、孰レノ方面ヨリスルモ、宗教ハ其國家主權ノ目的ニ從ヒ、其權力ニ服セザルベカラザルヤ明ケシ。要スルニ國家ナル特殊ノ目的ハ、人類ナル一般ノ目的ニ勝リ、個人ノ私理ハ、團體ノ公道ニ讓ルノ義ニ由ルモ、亦自ラ然ラザルヲ得ザルナリ。而シテ國家ニ宗教ヲ支配スルノ權アルハ固ヨリナルモ、其自己ノ目的ヲ害セザルモノニ向テ妄ニ干涉スルガ如キハ、權力ノ濫用ニシテ、且ツ政治的不道德ナルト同時ニ又、却テ自己ノ目的生存ヲ毀害スルノ一端ナレバ、無法ノ干涉ト、偏頗ノ處置トハ、常ニ之ヲ慎重シ、從テ國家ノ生存上ニ、特別ノ必要ヲ認ムルニ非ラザルヨリハ、彼ノ所謂特待保護等ノ制度ヲバ、決シテ設定スベキモノニアラザルヤ明ナリトス。

第貳章 宗教心

第壹節 宗教心ノ起源

吾人ハ前章ニ於テ、宗教ナルモノハ、人ノ慾望ヨリ起ルモノナルコトヲ略述セリ。今更ニ之ヲ各種ノ方面ヨリ觀察センニ、抑々宗教ハ、個人慾望ノ反影ナルヲ以テ、吾人ノ心理ニ存在スル是等慾望ノ樞府ヲ指シテ宗教心ト稱スベシ。而シテ又其慾望ナルモノハ、感覺ノ積集組織ニ過ギザルヲ以テ、宗教心ナルモノモ亦畢竟一個ノ感覺ニ起因セルモノト謂ハザルベカラズ。凡ソ未經驗、若クハ不可抗力ニ對シテ、必ズ先ヅ恐怖ノ感情ヲ惹起スルハ、何人モ免レザル所ナリ、而シテ又此恐怖ナル感情ノ半面ニハ、必ズ敬崇ノ感情ヲ具スルハ自然ノ情勢ニシテ、既コ善ト稱スレバ、必ズ惡ニ對スルモノナルガ如ク、恐怖ノ半面ニハ、必ズ敬崇アリテ、畢竟恐怖ト敬崇トハ、一實體ノ兩面ニ命名セル表裏離ルベカラザルノ關係ヲ有スルモノタルナリ。

茲ニ注意スベキハ、心理學上、恐怖ニ隨キテ起ルモノハ、嫌厭ノ情ナリトスルモ、此嫌厭ナル

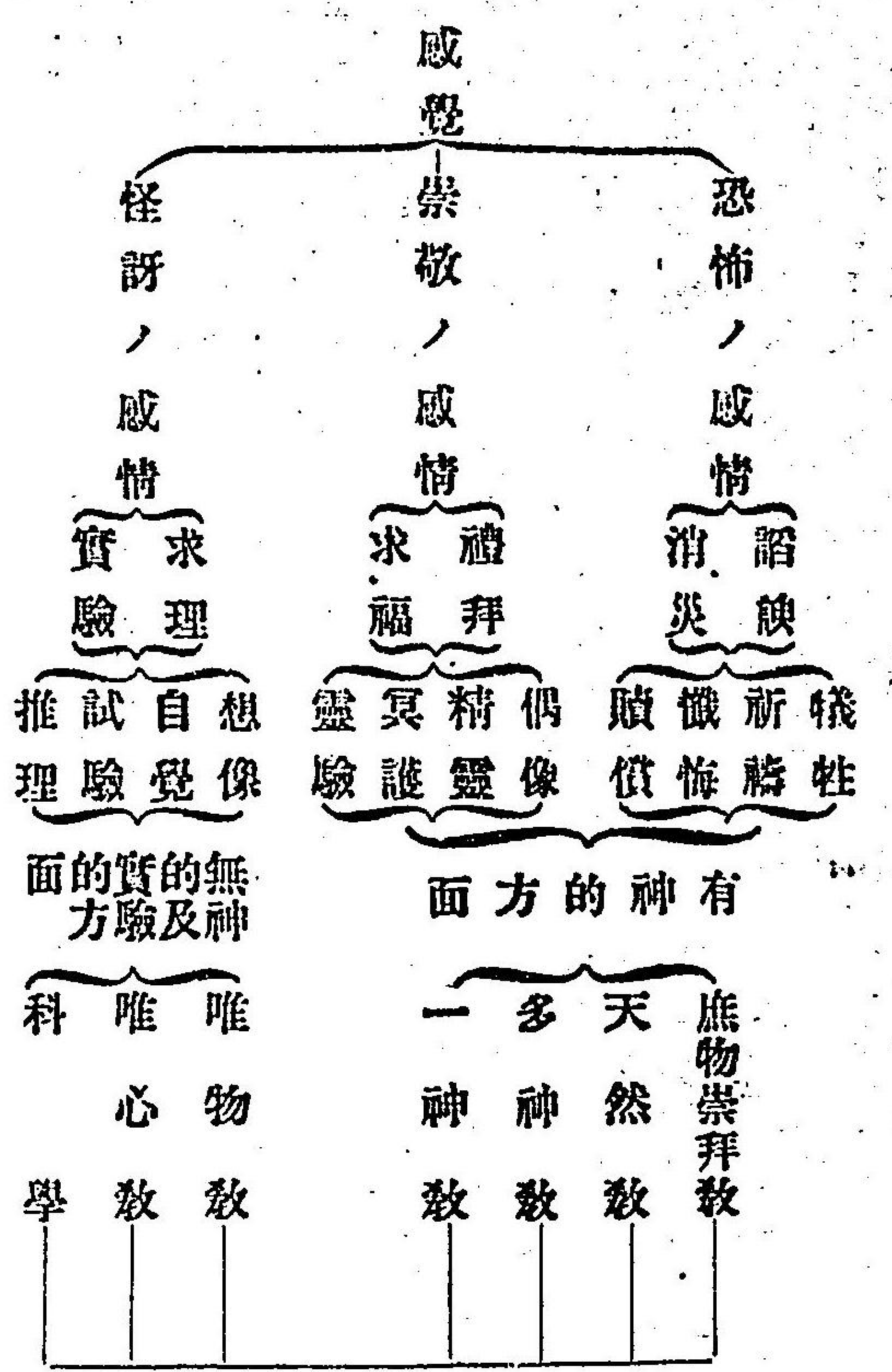
感情ハ、自己ト同等、若クハ以下ニ於テ其作用ヲ現ハシ得ルモノニシテ、不可抗力ニ對シテハ、概シテ嫌厭ノ念起ルノ餘地少ク、縱令嫌厭ノ情念起ルトスルモ、其ハ敬崇ノ一隅ニ止マズルニ過キズシテ、敬崇ノ念ノミ、獨リ其活動ヲ逞フスルニ至ルベシ。然リト雖モ或ル場合ニ於テハ嫌厭ヲ介シテ、敬崇ノ念ヲ惹起スルコトナキニシモアラズ。

左レバ人、苟モ外物ニ對シテ恐怖ノ念アル時ハ、之ニ續キテ敬崇ノ念ヲ誘起シ、此恐怖、敬崇ニ感情ノ化合作用ニ由リ、消災、誦諛、崇拜、求福等ノ種々ナル心理現象ヲ發現誘起ス。而シテ又、消災ノ念ハ、懺悔、贖償ノ行動ト爲リ、求福ノ情ハ、冥護、靈驗ノ感ト相和シ、或ハ偶像、靈鬼ノ奉祀ト爲リ、或ハ祈禱ト爲リ、若クハ誦諛ヨリ犧牲ヲ創メツ。冥護、靈驗、偶像、精靈、奉祀、禮拜、懺悔、贖償、祈禱、犧牲等ハ終ニ相賴テ以テ宗教ヲ形成シ、其宗教ハ、又天然教、多神教ヨリ、漸次發達シテ一神教ト爲リ以テ有神論、客觀主義ノ宗教系統ヲ組織スルニ至レリ。

然リ而シテ又此未經驗不可抗ノ事變ニ對シ、恐怖ノ念ト同時ニ、若クハ相前後シテ、如何ト智カノ程度トニ由ルシテ怪訝ノ感情ヲモ湧起ス、是レ

蓋シ心界自然ノ情勢ナルベシ。從テ此怪訝ノ感情ハ、又實驗求理ノ念ヲ誘引シ、想像、推理、自驗、自覺等ノ境域ヲ經過シテ、一方ニハ唯心教トナリ他ノ一方ニハ唯物教トナリ、以テ無神論的主觀、客觀ノ二主義ヲ開發シ更ニ其他ノ一方ニハ、各種ノ科學トナリテ、學術的實驗主義ヲ組織スルニ至レリ。

終リニ、此有神、無神、實驗各派ノ翠ヲ拔キテ、互ニ之ヲ融和調合セシメ、以テ内外具存、物心不離、神人一体、理事無礙ノ不二教ト爲ルニ至ルヲ以テ宗教開展ノ極度トス。蓋シ此順序ハ、個人ノ發育、智識ノ昇轉、並ニ人類、社會、乃至國家發達ノ順序ト、其揆ヲ一ニスベキハ、學理ニ於テモ、亦歴史、慣例ニ於テモ俱ニ疑フベカラザル自然ノ順序ナリトス。



汎神的不二教

第貳節 宗教心ノ眞義

宗教心ノ起源ハ、既ニ之ヲ說キシガ、更ニ進ミテ宗教理論上ニ於ケル宗教心ノ眞義ヲ明ニセント欲セバ、先ヅ信仰心、迷信、無信トハ如何ナルモノナルカヲ解説シテ、相互ノ異同、並ニ其關係ヲ詳ニセザルベカラズ。

凡ソ宗教心ノ發動セル状態ヲ形容シテ信仰心ト稱ス、然レドモ是等ハ信仰心ノ總體ニアラズシテ、必竟信仰心ノ一種類タルニ過ギザンバ、宗教心ト、信仰心トハ、同質ナルモ同量ノモノニアラザルヤ明ナリ。抑々信仰心ナルモノハ、其範圍頗ル廣大ニシテ、宗教的不信者ニモ、其不信ヲ認ムルノ信仰アリ、或ル哲學者ノ信仰、或ル詩人ノ信仰ノ如キ、宗教的信仰トハ、自ラ相異ル所アルモ、均シク信仰タルヲ失ハズ。左レバ信仰ニハ、宗教心ト、同一ナル宗教的信仰ト、其他ノ信仰トノ二種アリテ存シ、從テ又各々之ニ正妄ノ區別アルベキハ勿論ナリトス。(要スルニ各自が各自ノ眞實念ヲ集注スル意識作用ハ、即チ信仰ナリトス)

茲ニ研究スベキハ、一般宗教家ノ唱道スル一切ノ信仰ハ、結局宗教的信仰ニ歸入、若クバ進化セザルニカラズシテ、畢竟宗教的信仰ハ、信仰ノ最上乘、總括本體ナルモノナリトノ問題はレナリ。

吾人が前ニ、文明ノ終局ハ、人世一切ノ規範ハ、悉ク宗教的トナルベシト云ヒシハ上同トハ、全ク其意義ヲ異ニスベケレバ、決シテ之ヲ混淆スベカラズ。蓋シ彼ハ進化ノ圓滿

ナル相親ニ就テ論シ、敢テ其本領ヲ打混無視セルモノニ非ザルガ、今此ニハ各種信仰ノ分辯如何ヲ論スルモノナレバ、其區別自ラ列然タリトス

此問題ハ、人間最終ノ目的ヲ達スルニハ、孰レノ信仰、孰レノ行動ガ、最も便利ニシテ、且ツ最も迅速ナルヤト云フ信仰ノ價值問題ニ歸シ、敢テ分滿ノ論ニハアラザルガ如シ。既ニ又價值問題ナリトスルモ、各種ノ信仰ガ各々其極致ニ達シ、心界ノ自在安全ヲ得ルハ、殆ント同一点ニ歸シテ、堅的、淺深、權實、了未了ノ差別アリトセンモ、横的ニハ平等致一ニシテ、人生ノ目的ヲ達スルニ、孰レガ便利迅速ナルヤハ、必竟各自ノ性能機根ニ由テ岐ル、ベキモノナラン歟。即チ之ヲ哲學ノ方面ヨリ觀ルトキハ、一切ノ信仰ハ、悉ク哲學的トナリ、又詩的方面ヨリ之ヲ觀バ、全ク詩的ニモ歸入スト云フコトヲ得ン。蓋シ其眞髓ニ達シタル者ヨリ之ヲ觀レバ、權モ亦權ナラズ、分滿不二、智々、皆平等一味ナルモノナリトス。

迷信トハ、客觀ニ人格的神ノ別在ヲ固執シ、此神ヲ以テ禍福ノ本源、主宰

者ト信ズルモノニシテ、此迷信ヨリ起ル奉祀、要求的動作(道德的禮拜ト)ヲ迷信行為ト稱ス。而シテ往時ノ所謂宗教的信仰ハ、殆ンド此迷信ニアラザルモノナケレバ、迷信ハ蓋シ真正ナル信仰ヲ喚起スル階段若クハ方便ナリト謂フベキモノニシテ、迷信ト真正ノ信仰トハ、結局智識ノ程度ヨリ生ズル距離的ノ區別ナリトス。故ニ迷信モ、迷信者其者ニ取リテハ之ヲ以テ自心ノ安慰ヲ得ルハ勿論ナリ。然レモ其活用ノ自在、對他ノ功用狹隘ナルベキハ、固ヨリ當然ナリトス。然リ而シテ宗教心ト、迷信トノ關係如何ヲ見ルニ、真正ノ信仰ガ、宗教心ノ發動セルモノナルト同ジク迷信モ、亦宗教心ノ發動セルモノニシテ、迷信ト真正ノ信仰トハ、其根底全く宗教心裡ニ存在スレバ、迷信モ、亦信仰心ノ一種ト稱スルコトヲ得ン。然レバ宗教心ノ意義ニハ、自ラ二方面ノ併立スルモノアルヲ見ルベシ。

第一、無限(神)ヲ尊敬依頼スルノ念

迷信ハ此一部ニ包藏セラル

第二、無限(神)ト融和同化セントスルノ念

真正ノ信仰

第一ハ宗教的安全ノ慾望ヲ主トシ、第二ハ其進取ノ希望ヲ主トス、而シテ此慾望ノ外部ニ發露シテ、自身ニ在ルモノハ敬虔精進トナリ、神ニ對シテハ禮拜、祈禱トナリ、其迂回シテ現ル、モノハ、彼慈悲、同情、教化等ノ社會ニ對スル道德行為ト爲ル。斯ノ如キ宗教的慾望ノ活動ヲ、信仰、及宗教行為ト稱シ、其程度ニ由テ、迷信ト、真正ノ信仰トノ區別ヲ生ズルニ至ルモノトス。

既ニ安全ト進取トノ希望ハ宗教心ナリト稱スルモ、此安全ト進取トノ慾望ハ、何レニ對シテモコレアラザルハナク、衣服、飲食、居室、學藝、智識健康其他社會的地位等皆然リトス、然レドモ宗教的慾望ハ、既記ノ如ク無限ニ對スルモノナレバ、全く無形ノ中ニ活動シ、敢テ之ヲ他ニ較シ、物ニ對シテ、測度スベカラザル自家獨占ノ目的ヲ達セントスルニ在ルヲ以テ、其間大ニ徑庭アルモノニシテ、先キニ所謂哲學者ノ自覺、詩人ノ自得

倫理的道德家等ハ、亦皆此宗教的慾望ノ目的ト同一點ニ到レルモノナルベキモ、唯々其到達ノ方法ニ多少ノ差異アルモノニシテ、一ハ不用意ニシテ自然ニ之ニ達シ、一ハ豫メ目標ヲ定メテ之ニ到レルモノタルガ如シ。而シテ其之ガ可否取捨ノ如何ハ、理論問題ニアラズシテ、先ニ所謂各自ノ性能機根ニ由リテ、相分ル、モノナリトス。

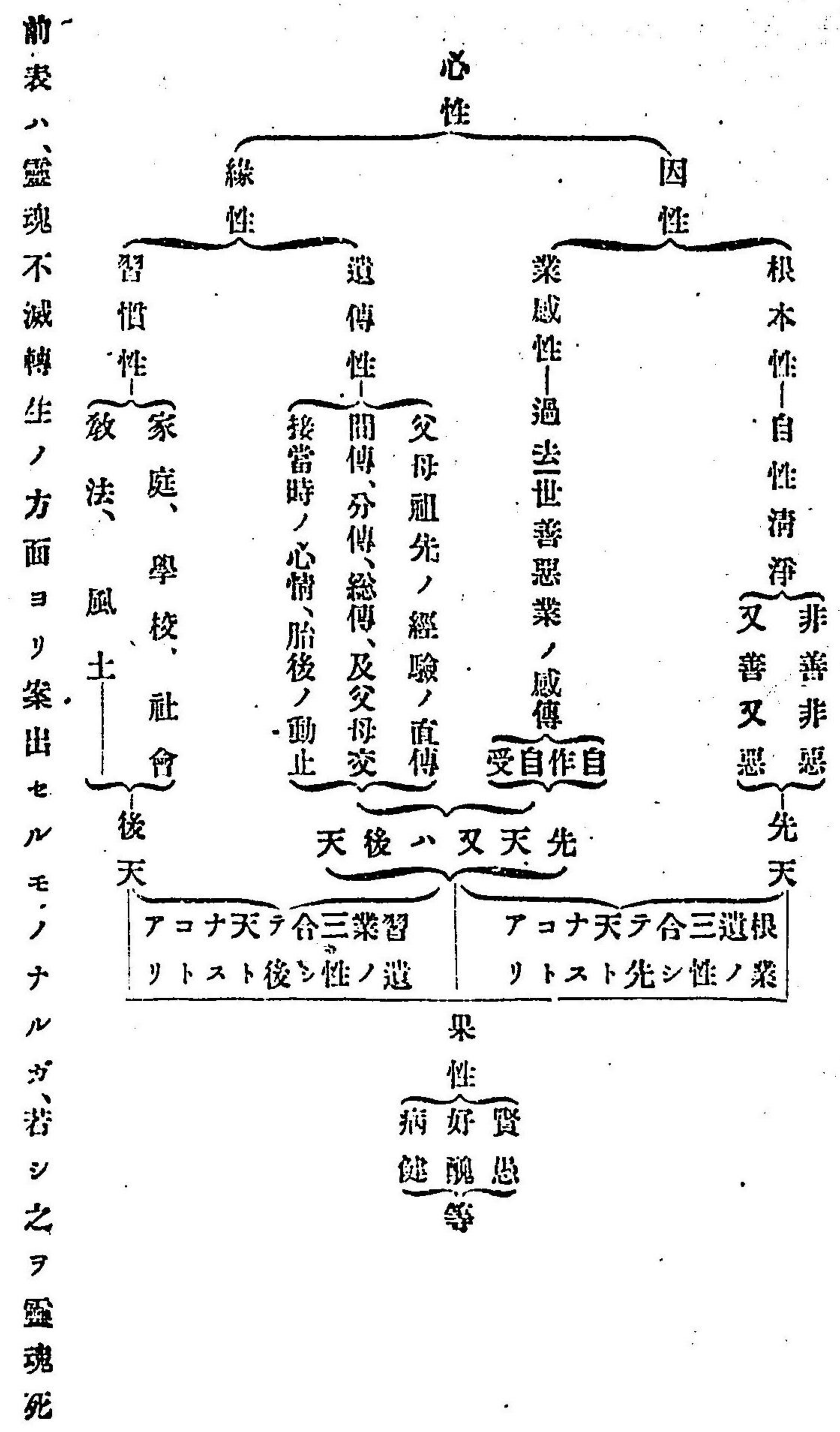
最後ニ彼ノ無信トハ、自暴、自棄、狂痴ノ輩ガ其精神ノ或ハ錯乱、或ハ癡痺或ハ冷滯、或ハ逆上等一種ノ心理ノ病的現象ニ附シタル名稱ニ過ギズシテ宗教心、及一切ノ信仰心ト、毫モ關係スル所ナシ。

第參節 先天論後天論

宗教家常途ノ言ニ、宗教心ナルモノハ、人類ノ天賦特有ノ性能ニシテ、教育經驗ヲ俟ツテ、始メテ發生スルモノニアラズト。是レ則チ倫理學上ノ所謂先天論ナリトス。然レドモ宗教心ガ、先天ナルカ、將タ後天ナルカハ一箇ノ疑問ニ屬シ、未ダ速斷スベカラザルモノナルガ如シ。

吾人ハ信ズ、吾人ガ最先ノ心性ナルモノハ、清淨無垢ニシテ、恰モ明鏡ノ如キモノナリシコトヲ。而シテ其清淨トハ、單ニ善ノ謂ヒニ非ズ、善惡ハ既ニ相對界内ノ事ナレバ、最先絕對的ノ本源ハ、必ズヤ善ニモ非ズ、惡ニモ非ズ、唯善惡俱ニ開展、若クハ射映シ得ベキ非善非惡、又善又惡、善惡俱存ノ素質ヲ有スルモノナリト謂ハザルベカラス。蓋シ十界本具、一念三千、性相近、等ノ意之ニ同シ。而シテ、此清淨無垢ノ心性ハ、自ラ外界各種ノ境遇ニ應ジ、以テ善惡種々ノ影像ヲ發現スルニ至ル。左レバ彼他作自受ノ遺傳論ニモセヨ、又自作自受ノ轉生論ニモセヨ、兎ニ角宗教心、其他一切ノ心識活動ナルモノハ、外界ノ事情ニ刺撃セラレテ、始メテ開發セシモノナルヤ明ケシ、是レ恰モ彼ノ種子ノ喬木トナリ美花ヲ開クニ足ルノ素質ヲ包具スルモノナリト雖モ、光熱、水土、風氣等ノ如キ外界ノ媒介力ヲ得ルニアラザレバ、其萌芽成育ヲ見ルコト能ハザルノミナラズ、又外界ナル媒介力ノ適否如何ニ由リテハ、更ニ枯落繁茂其趣ヲモ異ニスルコトアルニ至ルガ如シ。故ニ種子ニ、良材美花ノ素質ヲ具スルノ點ヨリ之ヲ觀察スルトキハ、先天論トナリ、外界ノ事情、即チ光熱、水氣等ノ力

ニ由リテ始メテ發生シ、且ツ之ガ適否如何ニ由リテ、枯落繁茂ノ差アル
 點ヨリ論ズルトキハ後天論トナルベシ。茲ニ又或ル素質ガ同一ノ外界
 事情ニ應ズルモ、同一ノ結果ヲ得ザルモノアルハ如何ニトノ疑アルベ
 キモ、其ハ先天後天ニ論ナク、人生ハ既ニ悠久ニシテ、彼ノ種子ノ展轉シ
 テ其源ヲ知ルコト能ハザルガ如ク、此長時間ニ於テ、各自ノ享受シタル
 經驗ノ積集セル程度、及發現方面ヲ異ニスルモノアルベキハ固ヨリニ
 シテ、既ニ自己ニ稟受セル資性ノ異ルコトアル以上ハ、設令外界ノ事情
 同一ナリトスルモ、成果ノ均シカラザルハ決シテ怪ムニ足ラザルナリ
 彼ノ迷悟ノ程度、造業ノ應報トシテ十界ノ區別ヲ建立スルモ習相遠シ
 ノ意モ、必竟此理ニ外ナラズ。(獨リ、彼ノ神ノ下ト稱スルモノノ直線論ハ、遺般ノ解脫
 三至テ神ノ放恣體論ヲ自証スルノ窮說タルヲ免レザ
 ル)要スルニ先天論、後天論、性善性惡論ノ如キハ、各自ノ觀察點ヲ異ニ
 スルヨリ生ジタル半面論ニシテ、結局犄角ノ戲論ニ終ルニ過ギザルベ
 シ。而シテ吾人ノ取ル所ハ固ヨリ一體具有說ノ調和主義ニ外ナラザル
 モノナリ。今假リニ心性差異ノ由縁ヲ左ニ表示センニ



時ニ絶滅シテ轉生スルコトナシトスルモ、其理敢テ異ルコトナク、唯其根本性ヲ最原ノ祖ニ譲リ、其業感性ヲバ之ヲ遺傳性中ニ編入スレバ足レリトス。蓋シ自己出生以前ニ於ケル一切ノ人物、一切ノ社會ノ經歷ハ其祖先既ニ之ニ交渉感染シ居レバ、靈魂不滅論ニ所謂自己前生ノ作業ノ如キモ、全ク父祖ノ經驗ニ歸屬包含スルコトヲ得ルモノニシテ譬ヘバ彼ノ轉生說ニ由リテ、自己ノ前生ガ、管公、楠公、豐公等タリシトセンニ、是等ノ人物ノ經驗作業ハ、其當時ニ於テ社會的ニ、又ハ後日ニ於テ歴史的ニ、自ラ既ニ自己ノ父祖ガ、之ニ干與シツルモノナレバ、自己ノ今生ニ於テ享受スル經驗ノ度ハ、轉生ト遺傳トニ由テ、更ニ多寡變異アルモノニアラスシテ、唯、自己既往ノ經驗トスルト、他ノ傳授トスルト、即チ、直接間接ノ争ニ過キズシテ、自己心性ノ包容ハ、均シク皆同量同質タルコトヲ得ルモノナリ。要スルニ自己出生以前、無始爾來一切ノ人物、一切ノ經驗ハ、必ズヤ展轉シテ、多少ノ感染ヲ自己ニ及ボサルモノナク、從テ又自己ノ經驗ハ、爾後無盡際ノ未來ニ及ブ迄、幾千億ノ人ニ轉傳感染スルコト

恰モ古聖ノ感化ガ其當時ヨリ今世ニ及ビ、猶ホ幾万世ノ後ニ及ブ均シクシテ、唯其感染ノ程度ニ淺深、大小、又ハ隱現、表裏、或ハ受感者ノ親疎遠近ニ由テ、多寡ヲ生ズルガ如キ別アルノミ、左レバ縱令無知ノ田夫匹婦ト雖モ、亦幾分カ過去、現在、未來一切ノ人物、及十方無量ノ事物ニ相交涉關連セザルコトナキハ、毫モ争フベカラザル事實ナリトス。

此ニ由テ之ヲ觀レバ、靈魂ノ滅否如何ハ、心性論ニハ殊更緊要ナルモノニアラズシテ、其孰レヲ取ルモ吾人人類ノ心性、即チ賢愚等ノ差異ノ生ズル因縁ハ、同一理タル總經驗ノ感染ノ程度ニ歸シ、敢テ滅不滅論ノ影響ヲ受クルコトヲ要セザルモノナルト俱ニ、靈魂ノ滅不滅ニ由リテ、自己ノ未來ニ苦樂ヲ受クルト否トニ關セズ、微々タル吾人ノ行動モ、亦永ク未來ニ展轉スルノ理ヲ想ハバ、吾人ハ未來ニ對シテ深く戒心スル所ナカルベカラザルナリ。

第參章 宗教ノ客體

第壹節 神ノ意義

夫レ宗教ハ、人ト神トノ關係、即チ人ノ神ニ對スル願望ヨリ發スル一切ノ活動ヲ指スモノナレバ、宗教ノ主體ハ、有限ノ人ニシテ、此主體ガ、即チ彼岸ノ無限ニ進マントスルモノナルヲ以テ、無限ナル神ハ、即チ宗教ノ客體タルナリ。而シテ此所謂神ノ解釋、意義ニ就テハ、宗教家、學者等ノ見解區々ニシテ一定セザルノミナラズ、必竟此神ナルモノノ解釋如何ニ由リテ、宗派學派ヲ分チツルト、同時ニ其解釋ノ當否ハ、各派ノ價值ヲ定ムルニ足レルモノナリトス。而シテ此神ヲバ、體性的(宇宙的觀念)ト、効能的(人格的觀念)トニ分別スベクシテ、眞如、如來藏、阿賴耶、六大法性、大極、理氣等ハ其體性的ノ代名詞ニシテ、「ゴット」「上帝、如來等」ハ、其効能的ノ代名詞ナリ。又唯心ト云ヒ、唯物ト云ヒ、乃至物心不離ト云フガ如キハ、體性ト効能トヲ併合セル神ノ解釋、又ハ神ノ性質タルベキノ場合アリ。而シテ又此解釋中、各派ノ所說、自然ニ相一致シタル點アリ、今之ヲ舉ゲンニ、

神ナルモノハ絕對無限ナラザルベカラズ
抑々此致一ノ點ハ、寔ニ勸カスベカラザルノ眞理ナリトス。若シ神ニシテ、絕對無限ナラザランカ、神タルノ價值ナク、以テ何ゾ吾人ノ希望スル宗教ノ客體トナスニ足ラン。蓋シ神ニシテ無限絕對ナラズシテ、有限相對對ノモノナランカ、敢テ吾人ニ異ナルナカルベク、設如吾人ヨリ遙ニ有力ナリトスルモ、其ハ實ニ十歩百歩ノ爭ニ過キザレバナリ。今國家ニ就キテ之ヲ例センニ、其主權ハ即チ神ナリ、絕對ナリ、無限ナリ、又固ヨリ無限絕對ナラザルベカラズ、若シ主權ニシテ、無限絕對ナラザランカ、敢テ主權ト稱スベカラザルト全時ニ、又眞ノ主權ニアラザルベキヲ以テナリ。然リ而シテ、其國家統治機關ノ如キハ、縱令最高ノ宰相タリトスルモ猶ホ是レ有限相對ニシテ一般ノ臣民ト異ナルナク、又如何ニ有力ナリトスルモ、均シク是レ國家法規ノ下ニ立ツモノニシテ、只々有限界内ニ於ケル大小高下ノ差異タルニ過ギザレバ、主權ノ神聖ニシテ法規ノ上ニ立チ、無限絕對ナルトハ、全ク其性質ヲ異ニスルモノタルヤ明ナリト

ス。之ト均ク宗教ノ客体タル神モ、亦國家主權ノ如ク、無限絕對ナラザレバ、以テ宗教上唯一ノ目的トナスニ足ラザルヤ勿論ナリ。此ヲ以テ之ヲ觀レバ、宗教ノ客体タル神ナルモノハ、無限絕對ナラザルベカラザルハ、何ニモ疑ハレザル所ニシテ、又自ラ真理ノ許ス所ナリ。然ルヲ此絕對無限ノ分解ニ至テハ、各派ノ所說區々ニ出デ、敢テ一定セザル所アレバ、更ニ節ヲ分チ順ヲ追フテ、其主要ナルモノヲ舉示セントス

第貳節 絕對無限ニ對スル解釋上ノ異說

一、人格神說

神トハ、意志アル人格的實在者ニシテ、自ラ人類乃至宇宙一切ノモノヲ造リ、從テ又之ヲ主宰左右スルノ權力アルモノナリトス。此說ニハ、自家操著スル幾多ノ缺點アリテ存ジ。神ト、宇宙トハ自ラ別立スルヲ以テ、乃チ神ト宇宙トノ相對ト爲リ神モ、宇宙モ、俱ニ絕對無限ナルコトヲ得ズ。且ツ又神ト宗教ノ主体タル人トモ全ク別在ニシテ其神人間ニ、治者、被治者のノ意義及關係ヲ有スルモノナランニハ、彼ノ宗教

心ノ半面、即チ尊敬依頼テフ方便の方面ヲノミ満足セシムルコトアルベキモ、更ニ高等ノ、宗教心、即チ同化ノ希望ヲ容ル、ノ餘地ナク、遂ニ人ヲシテ宗教的失望ニ沈マシムルニ至リ、從テ宗教タルノ効能價值ヲ失却スルニ至ラン歟。

又彼ノ造作說、權力說ノ如キハ、到底假說、比喩タルヲ免レザル空想論ナレバ、茲ニ之ヲ詳論スルノ要ヲ見ザルナリ。

二、勢力說

神トハ、人類乃至宇宙ノ根底ニシテ、從テ又之ヲ主宰左右スルコトヲ得ル無形ノ勢力ナリ。

此勢力ハ、宇宙ト離レテ別ニ存在スルモノナリトナスノ說ト、宇宙ト俱ニ相一致ストナスノ兩說アリテ、前者ハ前項ノ人格神說ト、全然同一理ニ歸スベケレバ、今後者ノミヲ取リテ之ヲ論難センニ。

此說ハ、前說ノ神ナルモノノ人格ヲ褫奪シ、比喩ヨリ理論的ニ、空想ヨリ理想ニ進化シタルモノナリ。然レモ、猶ホ神人間ニ、治者、被治者のノ意義

ヲ含ムヲ以テ、詮ジ來レバ、遂ニ人格神說ト同一ノ缺點ヲ見ハスニ至ルベク。要スルニ神ガ、有形ヨリ無形ニ變化シ、人格的別立ヨリ生ズル相對有限ノ非難ヲ避ケントシテ、遂ニ空漠思惟スベカラザル無味乾燥ナル理想ノ痼疾ニ陥リタルモノニ過キザルベケレバ、此勢力ガ如何ナル理由、方法ヲ以テ宇宙ノ根源タルカ、又何故ニ神ガ、能ク人ヲ主宰左右スルノ權力アルカノ説明充分ナラザレバ、到底之ヲ信仰スルコト能ハザルモノナリトス。

上來ノ二說ハ、所謂有神論ナルモノノ部類ニ屬スベキモノニシテ、其勢力說ノ如キハ、人格的神ヲ認メザレバ、所謂有神論トハ相容レザルガ如キ觀アルモ、吾人ハ治者被治者のノ意義ヲ含ムモノヲバ、悉ク取テ以テ有神論即チ人格的神ノ實在說ト、同一義ニ歸屬スルモノナリトナスナリ。而シテ又此二說ハ、神ヲ万有ノ原因トナスヲ以テ、之ヲ此有神の因神論(因神論ニ對スル果神論アリ後段之ヲ説ク)トモ稱スベシ。

三、唯物說

唯物說ニ二種アリ、學術的唯物論、宗教的唯物論是レナリ。學術的唯物論トハ、所謂元素說ニシテ、宇宙ノ体性ヲ幾種ノ元素ト定メ、万差ノ諸物ハ皆此各元素ノ相異、并ニ各元素ガ種々ノ關係ヲ以テ結約セル結果、即チ化合ノ作用ヨリシテ發生シ、隨テ又万物ハ、其元素化合ノ種類、程度、及周圍ニ於ケル他ノ諸物トノ相互ノ關係ヨリ、各種ノ活動ヲ開始スルニ至ル。然ルニ此化合力、活動力ニシテ、自然ニ退滅シ、或ハ又他ニ其ヲ障害セラル、時ハ、其活動忽チ茲ニ息ミ、從テ其化合物體ハ、再ヒ當初ノ元素ニ還元シ、元素ヨリ出デ元素ニ復歸シ、循環止ムノ時ナク、化合物ハ一旦離散スルコトアルモ、其元素ハ曾テ滅絶スルコトナク、且ツ其活動ノ勢力モ亦何レニカ存在シテ、全ク消散スルモノニ非ズトス。左レバ宇宙ノ体性ハ常住ニシテ、増減アルコトナシ、蓋シ無ヨリ有ヲ生セズ、有ハ無ニ歸スベカラザルヲ以テナリト。是レヲ物質不滅、勢力恒存ノ理法ト稱ス、今此說ニ就キテ、吾人ノ所謂神即チ無限ナルモノヲ建設スレバ、

元素、并ニ化合力、引力等ノ勢力ヲ指シテ神トナサザルベカラズ。

此說ハ、固ヨリ宗教的思想ノ領地、甚タ狭小ニシテ、唯其錯雜ナル關係ヨリ、偉大ノ活動ヲ發生スル自然ノ妙有ヲ軫念シテ、神的概念ヲ喚起スルト、同時ニ、一方ニハ、還同元素ノ理ヲ味ヒ、以テ一切ノ貪執偏着ヲ去リテ宗教的ノ安慰ヲ計リ、又一方ニハ、勢力不滅ノ義ニ據リテ、偉大ナル感化ヲ現在ヨリ未來ニ及ボサンコトヲ希望シ、從テ一切ノ活動ヲシテ、益々活發ニ完全ナラシメンコトヲ期スルニ在ルナリ。

次ニ宗教的唯物說ハ、學術的唯物說ニ比シテ、純粹ニ唯物說ト稱シ難キモノアルニ似タリ、何トナレバ此唯物說ニハ、更ニ心法ナル元素ヲ加ヘツ、即チ心識ヲモ亦一ツノ元素トナセ、バナリ。然ルニ吾人ガ、同ク之ヲ此ニ論ズルハ、彼ノ唯心說ノ心外無別法論ニ對シテ、法体恒有說ノ元素說物質不滅說ニ同シキト、又因緣假和合說ト、化合作用說トノ相似タル所アルヲ以テ、勢ヒ唯物說中ニ編入シタルモノナリトス。

此宗教的唯物說ハ、諸物ノ体性、即チ元素ナルモノ常在ニシテ、其元素(注)假ニ和合シテ吾人、乃至諸物ヲモ發生スルモノトス。然リ而シテ其ノ之

又、發生轉變セシムル所以ノ理、即チ其元素結成ノ原因ハ、吾人各自、及人類全般ガ會テ作り來リシ疑惑因業ノ惰力ニ出テ、其疑惑因業ハ、吾人ノ日常目撃シツ、アル變轉動搖セル各般ノ現象ナルガ、皆是レ清淨虚空界ノ一邊ニ起レル迷妄ニシテ、是ノ迷妄ヲ眠抑斷除シ、空寂無爲ニ到ルヲ以テ、其神聖ノ極ト爲シ、而シテ此空寂無爲ニ進化スルヲ以テ、宗教的最後に目途ト爲セリ。今此說ヲ以テセバ、其所謂無限(神)トハ、因ト果トノ二位ニ分タレテ、結局因神ハ、學術的唯物說ト其趣ヲ同フスルニ過ギザルベシ。

因神——法体(元素)——宇宙万物ノ体性

果神——空寂無爲——宗教的進化ノ極度

物心ノ元素ヲ以テ、宇宙ノ体性ト爲スハ可ナリト雖モ、宗教ノ目的ヲシテ空寂ニ歸セシムルハ、不可ニシテ其空寂無爲ヲ目的トスルハ必竟無目的ト異ナルナキナリ。抑々學術的唯物說ハ、樂天的現世效ナルト同時ニ、實驗論ナレバ、固ヨリ之ヲ誤謬ナリト謂フベカラザルモ、吾人ハ確ニ

之ニ吾人ノ心裡ニ存在スル無限絶對ノ觀念、及無限ト同化ノ信仰希望ヲ容ル、ノ餘地ナキヲ憾ム。且ツ彼ノ化合力ト云ヒ、引力ト云フモ、之ガ化合發作ノ原因ニ至リテハ、更ニ何等ノ説明ヲモ爲サズシテ、實驗ノ彼岸ニハ、猶ホ不可知ノ標札ヲ掲ゲザルヲ得ザルガ如シ。既ニ同一宇宙内ノ事物ニ對シテ、可知、不可知ノ區別アルハ、猶ホ一物ノ半面ヲ知ルモ、他ノ半面ニ不可知ヲ存セバ、可知ノ部分モ、亦真正ノ可知ナリシヤ、否ヤヲ疑ハザルベカラズトノ論理ヲ發生セシムルナキヲ保セザルナリ。又宗教的唯物説ノ空寂ヲ希フハ、正シク悲觀厭世教ニシテ、吾人人類社會、乃至宇宙ノ不可抗力ニ對スル失望ノ反動ニ過ギザルモノニシテ、畢竟無味ノ最モ甚シキモノト謂ハザルベカラズ。然レモ宗教ノ關門ハ、當ニ此教ニ在リテ存スルモノト謂フベシ。如何トナレバ、宗教ノ發芽ハ、實ニ人世ノ悲觀、人力ノ薄弱ニ起因スルモノナルヲ以テナリ。要スルニ其悲觀ハ、人ヲシテ真正ノ樂天ニ入ラシムルノ豫備ニシテ、彼ノ罪惡的、放逸的ノ樂天ニ勝ルモノナリトス。(後章 參照)

今此宗教的唯物説ノ神聖トスル空寂ハ、無限ナリヤ、將タ絶對ナルヤヲ論ズルニ、抑々虚空ハ万物ヲ包ムト雖モ、物アルガ故ニ空アリ、必竟空ハ有ニ對スルモノニシテ、其有ノ領域ヲバ、空ナルモノ之ヲ左右スルコト能ハザルヲ以テ、其空ハ未ダ無限絶對ナルモノニアラザルヤ明ケシ。而シテ此説ニ所謂空寂ハ、斯ル虚空的ノ意味ニ非ズシテ、無爲不動ノ靜寂ヲ指スモノナルベキモ、其無爲靜寂ガ、何ヲ以テカ斯ク神聖ニ將タ然カク希望スベキモノナルカ、容易ニ解シ難ク、勢ヒ彼ノ變動ノ劇烈ナリシニ對スル反動ニシテ、結局相對セル靜ト動トノ其一ヲ擇ビ、以テ自得シツルモノニ過ギサルナリ。左レバ此説ノ果神トスル所ハ、必竟無限ノ半面ヲ認メタルモノニ過ギザルヲ以テ、其因神論ハ當レリトスルモ、其果神論ニ至リテハ、未ダ可ナルヲ見ザルナリ。

四、唯心説

唯心説ニモ、亦種々ノ分派アリト雖モ、今之ヲ概括シテ其要ヲ摘舉センニ、

吾人ノ心識ナルモノハ、元來宇宙ノ全体ヲ包藏シ、彼ノ宇宙一切ノ現象ハ、悉ク我心識ノ變作スル所ニシテ、吾人ハ常ニ吾人ノ心識内ニ包藏セル諸象ノ影像ヲ、自己ニ反射シ、自己ニ認識シツ、アルニ過キサルナリ。

此反射ノ形影ヲ執シテ、客觀ニ實在セリトナスハ、眞ニ不覺迷妄ニシテ、外界ニ存在スルガ如キ一切ノ現象ハ、悉ク吾人ノ主觀心識内ニ存スル陰影ナルヲ、五官識ノ迷執ヨリシテ、外界實在ト信ズルニ至リシモノナレバ、則チ一切ノ現象ハ、悉ク感覺ノ作用ニ由テ出沒シ、一切ノ外界事物ガ、悉ク自己ノ感覺内ニ歸入スベキモノナルコトヲ覺悟スルニ至ラバ、自己ハ茲ニ始テ絕對無限タルヲ得ルモノナリト。

自己ノ心識内ニ宇宙ヲ包藏センメ、心識ヲ以テ絕對無限ノ資質ヲ有スルモノト爲シ、此無限性ヲ開發シテ無限ノ實用ヲ起スベシトハ、是レ吾人ノ所謂神人本具果神論ノ趣意ニ協フモノニシテ、自己ノ心識ヲ以テ無限ノ神トナスハ、乃チ可ナリ。然レドモ外界ノ現象ヲ以テ、全ク虛妄ト

ナスガ如キハ、蓋シ其意ヲ得ザル所ナリトス。(後段 參照)

抑々自己ニ具有スル資性ヲ開發シテ、絕對無限ノ神ヲ現出シ來ラシメントスルハ、正ニ是レ宗教最高ノ目的タル神人同化ノ直路ニシテ其理當レリト謂フベシ。然レドモ絕對無限ノ心識ガ、迷妄ニ覆ハレテ其作用ヲ失フト云ヒ、從テ此迷妄ヲ排除セザレバ、則チ絕對無限ヲ現ハスコトヲ得ズト云フガ如キハ、猶ホ眞心ト迷妄トノ相對ナルヲ如何セン。要スルニ迷妄ヲ無限性ニ容レズシテ、之ヲ他ニ對立セシメ、隨テ又之ヲ斷滅セザレバ、則チ無限タルコト能ハズト爲スガ如キハ、既ニ心識ノ無限ヲ傷クルモノナリトス。

夫レ唯物論ハ、客觀偏重主義ニシテ、唯心論ハ主觀固守主義ナリ。然レドモ吾人ノ智覺、實驗上ノ事實ニ於テハ、主客、物心、俱ニ實在併立ナリ。如何ニセン。彼ノ人格神說ノ妄ナルハ既ニ學者間ニ在テ、同ク退クル所ナリ。而シテ茲ニ吾人モ、亦唯物、唯心說ノ如キ一元論ハ、一應其巧妙ナルガ如キヲ感ズルモ、更ニ退テ之ヲ思惟セバ、既ニ陳腐ニ屬セル側面論ニシ

ヲ、未タ其全豹ヲ觀ザルモノト謂ハントス。

五、調和說

調和說ニ至リテモ、亦其中ニ五六ノ區別アリト雖モ、吾人ハ今吾人ノ最モ可ナリト信ズベキモノニ、自己ノ所說ヲ合攝シテ以テ其要綱ヲ舉ゲンニ、

此說ハ、先ツ宇宙ノ全体ヲ取リテ、以テ一箇ノ活物ト認メ、且ツ此宇宙ヲ指シテ、直チニ神(因)トナセリ。而シテ又此宇宙ノ体性ヲバ、更ニ物心不離ニシテ相互渉入セルモノト定メタリ、所謂現象即實體、實體即現象論是レナリ。

抑々宇宙トハ、十方ノ空ト、一切ノ世界トノ總合、即チ相對、有限ノ悉皆ヲ包括シタル自活的ノ、統合體ニ外ナラザレバ、空有俱ニ一切此内ニ収容セラレ、敢テ一物ノ其外ニ在リテ對立スルヲ認ムルコトヲ許サザルナリ。サレバ其相對、有限等ノ間ニ在リテ自ラ發生スベキ時間距離等ノ關係ノ如キハ、此統合セル宇宙體上ニ之レ有ルベキノ理ナシ

トス。(相對有限等ヨリ自ラ發生スルハキ時)是レ所謂豎ニ三世(過去、現在、未來)ヲ貫キ、横ニ空間ヲ越エテ十方ニ彌ルモノニシテ、即チ形式的絕對無限ナリ。次ニ又無限ナルモノハ、善惡、真妄共ニ備ハラザルヲ得ズ、或ハ善、或ハ惡其以テ缺グル所ナキニ至リ、始テ万德輪圓ナルモノトス。蓋シ唯善唯真ハ、決シテ具德ニアラザルナミナラズ、曾テ之レ有ルベキノ理ナク既ニ善ト云ヒ、真ト云フハ或ル對稱ニ過ギズシテ、真善ノ半面ニハ、必ズヤ妄惡アラザルベカラズ、必竟真妄善惡ハ、事物ノ兩端、又ハ其表裏ニ命名セルモノナルヲ以テ、善惡共ニ存セザレバ、事物モ亦存在セザルナリ、事物既ニ存スレバ、善惡必ズ相伴フ、從テ全然、其妄惡ヲ排除セシト欲セバ、終ニ其真善ヲモ斷滅シテ、全事物ヲ放棄セザルベカラザルニ至ルベシ。要スルニ彼ノ國家ニ於ケル命令ト、強制權トハ、互ニ相伴ハザルベカラザルガ如ク、事物ノ上ニ在リテモ、亦善惡相伴ハザレバ其活動作用ヲシテ完全ナラシムルヲ能ハズ。(後章參照)故ニ善惡俱有ナラザレバ、則チ万德圓滿ナラズ、真妄具存セザレバ、則チ無限ナル能ハ

ズ、之ヲ實質的絕對無限ト云フ。

吾人ハ、宇宙ノ内部ニ在リテ、彼此互ニ依立相對スル有限、即チ宇宙無限因神ノ一分子ナルヲ以テ、其資質ニ於テハ全ク宇宙無限因神ト異ナルコトナシ、(吾人モ亦一箇ノ因神故ニ其資質ヲ開展スルトキハ、内ニ自ラ万德斯現シ、外三世十方ニ遍滿スルコトヲ得、以上ノ具實現德ノ是レ則チ果神ニシテ、因神ノ上ニ現ハル、所ノ活用効能ナリ。而シテ其因神ハ体性ヲ指シ、其果神ハ効能ヲ指セルモノニシテ、因果ノ二神ハ、固ヨリ別立ナラザルヲ以テ、之ヲ因果二神ノ同化ト云フ。既ニ同化スルトキハ、他ニ又之ト同一ノモノヲ發生スルコトアルモ、万燈ノ光明、互ニ涉入無碍ニシテ、彼此ノ區別ナキガ如ク、前後、自他、互ニ主伴トナリ、互ニ吸收作用ヲ呈シ、彼此俱ニ各自ノ無限ヲ失フコトナシ、之ヲ果神ト果神トノ融化ト云フ。而シテ因果、果果、互ニ同化シ、因ハ体ニシテ、果ハ其用タリ、宇宙ノ部分タル自己ヲ以テ、宇宙、乃至他物ニ對スレバ、自己ハ其伴タリ、又自己ノ無限質ヲ以テ、宇宙、其他ニ對スレバ、一切ハ皆自

己ノ伴タリ、從テ又他ハ自己ノ万德中ニ具セラレ、自己ハ他ノ無限ニ吸收セラル、是レ則チ主伴具足ノ理法ナリ。

凡ソ一切万德ヲ具足シテ絕對無限ナル体性ヲバ、之ヲ因神ト稱シ、此因神活動ノ効能ヲ指シテ果神ト稱ス。而シテ因果、固ヨリ別物、別体、別立ナラサレバ、其ニ絕對無限ナルノ点ニ於テ缺ル所ナシ。今彼ノ玉ヲ觀ンニ、均シク玉ナリト雖モ、其磨カザルモノハ、光ヲ内ニ蘊シテ照サズ、其磨ケルモノハ、光ヲ外ニ現ハシテ藏サザルガ如ク、其光輝ノ發現ト、包藏トノ差アリトスルモ、玉質ニ於テ異ル所アルニアラズ、因果二神ノ關係モ亦又斯ノ如シ。

次ニ又吾人ハ宇宙(神)ニ對シテハ有限ナリトスレドモ、果神ニ對シテハ因神ナリ、(自己ヲ開發シテ果)而シテ宇宙因神ニ對シテハ、其部分ナリ既ニ又部分ナリト雖モ、其質相異ルコトナキハ、恰モ數子ノ一母ニ於ケルガ如ク、數多ノ兒子ハ、皆同一母ノ分子ナルモ、其人タルニ於テハ母子俱ニ同一ニシテ、敢テ異ル所ナキニ同キナリ。之ヲ因果、及有限無

限ノ二而不二、神人不一不異ノ理ト云フ(後後章)

吾人ハ、固ヨリ宇宙ガ、一箇ノ自活体ナルコトヲ信ズト雖モ、有限界内ニ於ケル起滅、増減ノ理法ト同一ナルモノニ非ラザレバ此理法ヲ以テ無限ノ上ニ加フベカラザルハ勿論ニシテ、起滅、増減、因果、轉化ノ理法ハ、彼此ノ關係ヨリ發生スルモノナレバ、即チ無限ナル獨立絶對ノモノニ此關係アルノ理ナク、此關係アルモノハ、固ヨリ無限絶對ナラザルヲ以テナリ。(後後章)此無限ナル宇宙ヲ取テ、以テ因神、即チ万有ノ体性トシ、体性ト現象トハ別在ナルニアラザレバ、万有即宇宙、現象即實體ニシテ、而カモ亦万有相互ニ因神タルコトヲ得ルトナスハ、蓋シ人間、各自ニ無限ノ資質ヲ含蓄セリトスルノ点ヨリ觀測センニ勢ヒ當ニ然ラザルヲ得ザルベキモノトス。次ニ又有限ガ、無限ニ進化ストハ、其効能ノ開發ナリトシテ、宗教ノ目的ヲ果神ニ標定セシハ、事實ニ於テ自ラ其當ヲ得タルモノナリ。殊ニ宇宙、乃至万有ノ素質ヲ物心ノ各元素ニ歸シ、而シテ此物心二元ハ、常ニ不離涉入スルモノニシテ、二而不二、物即心、心即物的ノ涉入無

和ナルコトヲ得トナスハ、蓋シ調和論ノ調和論タル所以ニシテ、一切ノ玄理、全ク是ニ胚胎ス。

夫レ物心ノ二元實在ナルハ、現實ナリト雖モ、毎ニ不離涉入スルヲ以テ物ノ方面ヨリ之ヲ觀レバ、單ニ唯物ノ如ク、心ノ方面ヨリ、之ヲ觀レバ、獨リ唯心ノ如シ。左レドモ、斯ク偏固センヨリハ、寧ロ具存不離ト稱スルヲ以テ、穩當ニシテ且ツ正鵠ヲ得タルモノト謂フベシ。

因ニ記ス、我神道ニ、高靈產尊ヲ以テ、吾人ノ本性ト爲シ、此尊ヨリ靈魂ヲ分泌シテ(怡モ一燭ノ燈火ヲ万燭ニ點ズナリトナリ、人トナリ、人ノ死後、善良ナル者ハ其靈魂復タ此尊ニ歸同スト爲スハ、人ト宇宙、又人ト果神トノ關係ヲ混合シテ立論セルニ似タリ。後後各論)

以上ヲ結論センニ、絶對無限ノ神ニハ二方面アリ、則チ實體的方面、ト作用的方面ト是レナリ。而シテ、其神ノ本体ハ宇宙ニシテ宇宙ノ實質ハ物心諸元ノ涉入不離ナルモノナリ。然レバ萬有ノ統合ハ直ニ、宇宙ニシテ宇宙ト万有トハ別立ナラズ、從テ又宇宙ハ、自活的無限ナリトス、

第四章 宗教ノ主体

第一節 人ノ意義

宗教ナルモノハ、吾人ノ必要ニ應ジテ發生シ、吾人ノ安全圓滿ヲ計ル爲メニ存在スルモノナレバ、宗教ノ主体タルベキモノハ吾人人類ナリトス。然リ而シテ此等人トハ、如何ナルモノカラ研究スルニ、蓋シ吾人ハ、相對有限ニシテ、他ノ幾多ノ同類ト對峙シ、此同類ハ、又他ノ種屬ト相並ビテ、吾人又ハ吾人人類ノ他ニ吾人ノ一箇、又ハ吾人人類全体ノ現有力ヲ以テ、左右シ得ベカラザルモノ(不可抗)アリテ、吾人ヲ制限スベケレバ、吾人ハ即チ相對依立ニシテ、絶對獨立ニアラズ、又制限羈束アリテ無限自在ナラズ、左レバ人ハ、人類以下ノ弱者ニ對シテ、靈長ナリトスルモ人類以上ノ無限力ニ對シテハ劣者ナルヤ自ラ明ナリトス。而シテ又吾人ハ、其何ガ故ニ有限依立ナルカラ知ラント欲セバ、先ツ相對界内ニ於ケル自然ノ理法、及此理法ヨリ發起セル世界ノ起源、并ニ吾人生死ノ問題ヲ窮明セザルベカラズ。今ヤ吾人ハ當ニ、節ヲ分チ順ヲ追フテ以テ是等ノ諸

問題ヲ解決セント欲ス。

第二節 轉化論

夫レ宇宙ハ、自活性ナルモ、其實体ハ、常住不變ニシテ、不生不滅、不増不減、不去不來ナリ、左レバ宇宙ノ全局ニ就テ、觀察スルトキハ、曾テ其消長轉變ヲ認ムルコト能ハズ。然レドモ其各分子、即チ相對界内ニ於ケル各有限ハ、毎ニ生滅起伏アリテ轉變無常ナリ。既ニ轉變無情ナルモ、全体ニ變易ナク、又其相狀ニ消長アリト雖モ、實體ニ増減ナシ。之ヲ不生、而生、生而不生ノ理ト云フ、而シテ不生ハ全体ノ質ニ就テ之ヲ云ヒ、而生ハ部分ノ相ニ就テ之ヲ云フ、(此内部ノ變動アルカ故ニ宇宙ノ全)是ニ由テ之ヲ觀レバ轉化トハ、宇宙ナル一大活物ノ内部ノ衝動ニシテ、有限相對界内ニ行ハルベキ變動ノ關係ヲ指スモノトス。既ニ有限界内ノ法則ナレバ、之ヲ以テ無限絶對ナルモノニ及ボスベカラザルヤ明カナリ

夫レ相對界内万有ノ轉變ハ、千差萬別ナリト雖モ、其間自ラ一貫ノ法則アリテ存ス、是レ則チ轉化ノ理法ニシテ其轉化ハ、觀察者ノ位置、又ハ轉

化ノ表面ト裏面トニ由テ、進化退化ノ二別ヲ見ルベシ。要スルニ有ハ無ニ歸スベカラズ、無ハ有ヲ生スル能ハズシテ、宇宙ノ實體ハ不生滅、不増減ナレバ、一物トシテ眞ノ生滅増減アルコトナク、唯々宇宙以内相對ノ上ニ於テ、位置形狀ヲ轉換スルニ過ギザルノミ。而シテ此位置ノ轉換上ニ於ケル新位置、即チ現在ヲ指シテ、生ト云ヒ、起ト云ヒ、増ト云ヒ、其舊位置即チ過去ニ對シテハ、死ト云ヒ、滅ト云ヒ、減ト云フ。次ニ又其形狀ノ變化ニ於ケル開展ノ方面ヲ指シテ進化ト云ヒ、増ト云フ、閉塞ノ方面ヲ指シテ退化ト云ヒ、減ト云フ。而シテ其一方ニ生増進化アレバ、他方ニハ必ず滅減退化ナルベカラズ、既ニ生ト云ヘバ滅ト對シ進化ト云ヘバ退化ト對シ、從テ退ノ終局ハ進ノ始、進ノ極端ハ退ノ初メ、進化退化ノ循環、成住壞空、空而復成ノ理即チ是ナリトス。故ニ其進化退化ノ争ヒノ如キ、例ヘバー一ノ出產ニ就テ、死ノ方面ヨリ之ヲ觀レバ、分娩ハ既ニ死ニ向ヒタルモノナルモ、生ノ方面ヨリ之ヲ觀レバ、則チ成育ノ始ナリトス。左レバ吾人ガ現世界ヲ指シテ、退化ト見ルモ、又其ヲ進化ト見ルモ、其ニ理ナキ

ニアラズシテ、其歸スル所ハ俱ニ一ノ轉化ナルベシ。(後照)

夫レ萬有ノ体性ハ、不生不滅ニシテ本有常住ナリト雖モ、其相狀ハ生起滅減無常ナリ、故ニ此所ニ滅減アリト雖モ、他ニ向テ生起アリ、生滅展轉シテ終期アルコトナク、終期ナキノ循環ハ、隨テ始期ナキヤ明ナリ、之ヲ轉化循環ノ理法ト云フ。然レドモ循環ニハ、其内既ニ數學的ニ一部ノ始終アル直線ヲ含ムヲ以テ、其一重ノ起滅ニ就テハ始終ヲ許スベク、否固ヨリ始終ナカルベカラザルヤ論ナシトス。

因ニ曰ク、進化トハ、彼ノ所謂善ノ謂ニ非ズシテ、單ニ發展ヲ意味シ、退化トハ亦惡ノ謂ニ非ズシテ、閉塞スルヲ指セリ。左レバ則チ物ノ實質ガ、善惡具存ナルノ理法ヨリスレバ、其進化ニハ、善惡俱ニ發達シ、退化ニハ、善惡俱ニ閉塞スルヲ以テ、進化ノ極タル神ハ、善ニモ自在ニシテ惡ニモ亦自在ナルコトヲ得。(後章ニ詳論ス)

第參節 因果論

夫レ結果ヲ生ズルニ原因ナカルベカラザルハ、殆ド説明ヲ要セザル自

然ノ公理ナリ。然レドモ原因ハ如何ニシテ結果ヲ生ズルヤハ、之ヲ解説セザルベカラザル歟。凡ソ萬有ガ轉化ノ理法ニ從ヒテ生滅循環スルハ前節ニ已ニ之ヲ論ジタレドモ其生滅ヲ發起スルノ理由ハ、未ダ之ヲ詳ニセズ、而シテ此生滅發起ノ理由ヲ、因果ノ理法ト稱ス。

抑々結果ヲ生ズルニハ、必ズ原因アルモ、此原因ハ、單獨ニシテ決シテ果ヲ生ズベキモノニアラズ、必ズヤ他ノ媒介力ヲ待タザルベカラズシテ此媒介力ヲ縁ト名ヅケ、縁ニハ遠縁、近縁、親縁、疎縁アリ、更ニ又與力ノ縁不障ノ縁等ノ別モアリテ、是等諸縁ノ扶掖ニ由リテ、始メテ其果ヲ生ズルモノニシテ、之ヲ因縁相資、或ハ復因ノ法ト云フナリ。然リ而シテ此縁トハ、復タ如何ナルモノナルカヲ尋ヌルニ、蓋シ縁トハ、因外一切ノ万有ヲ指スモノニシテ、一因ノ果ヲ發生スルニハ、遠近親疎ノ別アリトスルモ、宇宙一切ノ万有ハ、多少之ニ關連シ、且ツ之ガ媒介トナラザルモノナシ。左レバ縁トハ、自己以外、即チ因外ノ万有ナリトス。譬ヘバ吾人一箇ノ存在ニ就キ、生育ハ父母ニ關シ、衣食ハ農、工、商各種ノ人ニ關シ、加フルニ

風氣、水土、牛馬、草木、空間、光熱等ノ相扶ケテ以テ始メテ一箇ノ人ナル果ヲ現ハスコトヲ得ルガ如シ。彼一嬰兒ノ出生、死滅、將タ一粟種ノ發芽、枯死、若クバ一罪惡、一善行、皆宇宙一切ノ万有ト于係セザルハナシ。而シテ他ノ一切ガ、自己發果ノ縁トナルト同時ニ、自己モ亦他ノ一切ノ縁トナリ、或ハ物ハ心ノ縁トナリ、心ハ物ノ縁トナリ、眞ハ妄ノ縁トナリ、妄ハ眞ノ縁トナリ、相互ニ能縁所縁トナリ、以テ相互ニ其結果ヲ生ズ。而シテ又因ノ實質ハ、善惡兩面性ナルコトハ、既ニ論述セシガ如クナレバ、此外圍ノ縁ガ、因性ノ惡方面ト相應スルニ於テハ、惡果ヲ生ジ、其善方面ト相應セバ、善果ヲ生ズルヲ以テ上來ノ所說ハ、之ヲ因縁果、略シテ因果法ト云フ。然リ而シテ、果ハ又更ニ自己ノ經歷ヲ齎ラシテ、次代ノ因トナリツ、斯ノ如ク因果轉展止ム時ナキヲ以テ、之ヲ因果循環ノ理法ト云フ。左レバ宇宙一切ノ現象ハ、因縁相資、因果循環ノ寫相ニ外ナラズシテ、吾人モ、亦畢竟因果法ノ上ニ現ハレタル一ノ幻影ト云フベケレ。

第四節 創世論

萬有ノ形態位置ニハ自ラ變化アルモ、其本質、即チ宇宙ノ實體ハ、不滅不變ニシテ、不滅不變ナルモノハ、不生常住ナラザルベカラズ、不生常住ナルモノニ、始終アルベキノ理ナキヲ以テ、轉化及因果循環ノ理法ト相容レザルガ如ク、又轉化及因果循環ノ理法ハ、始終ノ問題、即チ創世論等ト相容レザルガ如キモ、形態位置ノ上ニ在テハ、其轉化循環ヲ許シ、從テ轉化循環ノ始終ナキ上ニモ、其或部分ヨリ、或部分點ニ至レル一重ノ起滅終始ハ、固ヨリ之レナカルベカラザルナリ。左レバ創世論ハ、此轉化循環ノ中ニ於ケル一重一回ナル世界ノ起源ヲ説明セントスルモノナリ。而シテ世界トハ、地球、日月、其他ノ太陽系、所謂十萬大千世界ヲ指スモノニシテ、今茲ニ是等世界ノ起源ヲ論ズルノ要ハ、ソモ、世界ノ起源、宗教ノ主体ナル人類ノ起源ト、自ラ相關連スルヲ以テナリ。

元來創世論ニハ二大派アリテ、一ハ人格的神ノ意志ヲ以テ造レリトスル造作説ニシテ、他ノ一ハ自然化成説ナリ。而シテ其化成説ニハ、又一元開發説、二元合成説、或ハ多元説、或ハ業感説、或ハ又心識變作説等ノ種類

アリ。

神意造作説ハ、到底比喻假設タルヲ免レズシテ、世既ニ學者ノ定評アレバ、吾人今茲ニ之ヲ細議スルノ要ナキモ、特ニ一言セザルベカラザルハ我國神道ノ所説是ナリトス。

神道家、及國史ノ唱道シツ、アル天御中主命、又國常立尊ナル造化神トハ如何ナルモノナルカ、蓋シ此神々ガ、大氣ノ中ニ化成セリト云ヒ、或ハ混沌ノ一氣、清濁分レテ天地トナルトノ眞義ヲ察スルニ、彼ノ大極説、或ハ星雲説、或ハ五輪説等ト均シク、自然開發ヲ意味スルモノニシテ、其化成論タルヤ疑ナシ。而シテ又諸冊ニ尊ガ、國土其他一切ヲ生ミ給フト云フヨリ以下ハ、既ニ創世論、及原人論ニアラズシテ、當時言語不完全ノ結果ヨリ生ゼシ比喩的言辭ヲ用井シ建國史、即チ我國家ノ開闢論ナリトス。然ルヲ世人ハ、建國史ト創世觀トヲ混合スルヲ以テ、頗ル奇觀ヲ呈シ、其間ニ種々ノ疑問ヲ醸スニ至リシモ、今之ヲ創世論ト、建國史トノ二様ニ區別シテ觀察センニ、兩々俱ニ自ラ明瞭ニシテ、大ニ了解シ易キモノアル

ヲ見ル、左レバ吾人ハ、我神道ノ創世論ハ、造作説ニ非ズシテ、寧ロ自然化
 成説ナルコトヲ信ズルモノナリ。若シ又一步ヲ譲リテ、之ヲ諾冊二尊ノ
 造作ナリトスルモ、其之ヲ造作セシニハ、自ラ種々ノ元素アリテ、此元素
 ヲバ、或ル方法ニ由リテ、世界、人類、乃至万有ニ凝結形成セルモノニ過ギ
 ザレバ、彼ノ天主教等ガ、單ニ天帝ノ意志ヲ以テ、突然無ヨリ有ヲ發作セ
 シメタリトナスモノト同日ノ論ニアラザルナリ。(又我天御中主尊ヲ創世、諸
 冊ニ尊ヲ原人、天孫天降ヲ
 建國トノ三類ニ區別
 スルモ亦其理アリ)次ニ自然化成説ニ就キ其一元ト云ヒ、二元ト云ヒ、多元
 ト云フモ、要スルニ一元ハ、包概ノ相ニ由リ、二元ハ、其素質ノ正反ノ差異
 ニ就テ立論シ、而シテ多元ハ、其効用活動ノ差別ニ就テ觀察シタルモノ
 ニシテ、又彼ノ業感論ハ、衆生ト世界トノ關係ノ不可思議ナルヲ説明セ
 ントシタルモノナルベク、心識變作説モ、亦此類ナルト同時ニ、人間活動
 カノ妙有ヲ窮明シタルモノナリ。要スルニ各自ノ觀察點ヲ異ニスルヨ
 リ生ジタル自然ノ結果ニシテ、其間自ラ巧拙アリト雖モ、亦各々一理ナ
 キハナシ、既ニ一理アリトスルモ、固ヨリ其全キヲ得ザレバ、直ニ可ナリ

ト許ス能ハザルモ、亦決シテ之ヲ棄ツベカラザルナリ。左レバ今其之ガ
 完全ノ説ヲ得ントスルニハ、勢ヒ一切ノ所説ヲ統合シテ、之ヲ調和圓融
 セシメザルベカラザル乎。

故ニ曰ク、世界ノ起源ハ、彼ノ星雲説等ノ如ク、一元ノ漸次ニ發展セルハ
 其事實ナルモ、之ガ素質ニハ本來物心ノ諸元素ヲ具存シ、以テ此素質ガ
 外界ノ事情ト相應シテ、次第ニ万差ノ諸物ヲ發顯成果シ、而シテ吾人ガ
 此地球(世界圖)ニ出生セシハ、(他ノ星界他ノ太陽系内ノ)自ラ其出生スベキ因
 縁ノ在リシニ由リテナリト。

左レバ吾人ハ、世界ノ起源ヲ、何レノ説ニ定ムルモ、或ハ其終局ヲ以テ起
 熱破裂ストスルモ、若クバ冷却閉塞ストスルモ、強ヒテ之ガ適否ヲ決ス
 ルノ要ナクシテ、必竟是等ノ諸説ハ、一物ノ轉化ヲ、進退二化ノ各方面ヨ
 リ觀タルモノト或ハ其体相用トノ各別ニ就キテ設論セシニ過ギズシ
 テ、表面ノ進化ハ、裏面ノ退化、裏面ノ進化ハ、表面ノ退化ナルト、又其体ア
 レバ、必ズ相アリ既ニ体相アレバ、必ズ其用ナカルベカラズシテ、此三者

ハ敢テ別立スルヲ得ズ、彼此互ニ相攝スルモノナレバ、觀察ニ異同アリ
テ立論自ラ差別スト雖モ、要スルニ轉化循環ノ理ト、又其轉化循環上ニ
位スル本有常住ノ義ニ戻ルコト能ハザルモノナリトス。

第五節 生死論

夫レ生死ノ理ハ、善惡應報ノ問題ト、自ラ相牽連スルノミナラズシテ、寧
ロ其生死論中ニハ、又自ラ善惡應報問題ヲ包含スベケレバ、今吾人カ、生
死ノ理ヲ解決セント欲スルニハ、勢ヒ先ヅ善惡應報ノ問題ヲ決セザル
ベカラザル乎。

吾人ハ、父母赤白二氣ノ化合作用ニ由リテ、生レ來リシハ明ナルモ、其父
母ノ最先源ハ如何、且ツ同一ノ父母、同一ノ家庭、同一ノ教育、同一ノ境遇
ニ在リト雖モ、其賢愚、美醜、健病、壽夭等ノ別アルハ如何、此ハ前ニ多少之
ヲ論辨セシモ、未ダ其全キヲ得ザレバ、今ヤ更ニ茲ニ此問題ニ對スル從
來ノ諸說ヲ舉ゲ、以テ之ガ當否ヲ判センニ、

一、儒道教

儒教ノ說ク所ニテハ、大極分レテ陰陽二トナリ、(宋儒ハ理氣二元ヲ立
ツルモ亦同理ニ歸ス)二 分
レテ天地人ノ三トナレリト、左レバ人ノ原始ハ、大極ヨリ發展セル陰陽
二氣ノ作用ナリトス。道教モ、亦之ト同趣ニ出デ、虛無ノ大道ヨリ、無名有
名ニ分レ、遂ニ天地萬物ヲ發生スト爲セリ。而シテ人ハ、陰陽二氣ノ作用
ニ由リテ生レ、死シテ其魂ハ天ニ歸シ、魄ハ地ニ委スト之レ即チ生死直
線論ナリ。故ニ吾人ガ、日常作為セル善惡ノ業報ハ、現世ニ於テ相償フベ
キモノトナシ、敢テ未來ノ應報ヲ謂ハズ。又吾人ノ賢愚、禍福、壽夭ノ如キ
モ、一ニ上天ノ明命ニ由リテ定マル所トス。然ルニ此天命論ヲ以テセバ
彼ノ顔回ノ貧且ツ夭、盜跖ノ富壽ノ如キ、天道ハ是カ非カノ歎ナキヲ得
ズシテ、遂ニ天道モ大ニ其價值ヲ失墜スルガ如キノ感アルヲ以テ、遂ニ
二箇ノ方法ヲ設ケテ之ヲ補ハザルヲ得ザルニ至レリ、今其一ハ、父祖善
惡應報ノ相償ハザルモノハ、之ヲ子孫ニモ及ボサルベキモノトナセリ
是レ所謂家族牽連的應報說ニシテ、往時ノ刑罰法理、古今民事上ノ責任
今時學者ノ遺傳論、及ヒ佛教ノ同業同果等、其趣ヲ同ウスル者トス。蓋シ

遺傳論ハ、人ニ賢愚等ノ別アル所以ヲ、其父祖ノ經驗ヨリ生ズルモノトナス迄ニシテ、善惡ノ應報、死後ノ如何ニ論及セザルモ、自己ノ善惡業、即チ其經驗ノ結果ガ子孫ニ波及シ、子孫ハ、其感傳ノ如何ニ由リテ自ラ種々ノ事變ヲ發生シ、從テ之ガ應報ヲ享ルノ点ヨリスルトキハ、遺傳論ハ實ニ善惡應報ノ理ニ於テ正シク家族牽連的應報說タリトス。其二ハ善惡無報、時節未到也トナシテ、暗ニ今生以外ノ未來ニモ、應報ノ時機アルベキトヲ認識シタルノ傾アレドモ、其解說十分ナラズシテ、殆ド遁辭タルノ嫌ナキニアラザル也。終リニ又死後、靈魂ハ天ニ歸リテ如何ニスルヤヲ尋ヌルニ、祖先照鑑等ノ如キ語アルヲ見レバ、靈魂ハ永ク子孫ノ祭祀ヲ饗ケ、且ツ子孫ヲ照鑑スルモノナルガ如シ。要スルニ此教旨ハ、生死直線論ニシテ、其善惡應報問題ニ對シテハ、自作自受兼家族牽連應報說ナリトス(後照)

二、有神教

人格的神教ニ在テハ、人祖、乃至宇宙ハ皆天帝ノ意思ヲ以テ造作セルモ

ノトナスヲ以テ、其原人說ハ最モ簡易ニ解決スルコトヲ得テ、死後善者ノ精靈ハ天帝ノ傍ニ歸リテ嘉賞豐樂ヲ受ケ、罪者ハ幽界ニ陥リテ、呵責苦痛ヲ受クト。此教理ハ、自作自受ノミノ個人單本位說ニシテ、其善者ハ天堂ニ昇リ、罪人ノ幽界ニ下ルハ、確カニ未來ノ存在、未來ノ賞罰應報ヲ認識スルモノニシテ、善惡ノ業報、稍々密ナルガ如キモ、大善小善、大惡小惡悉ク之ヲ同一ノ天堂、又ハ均等ノ幽界ニ歸セシメ、且ツ善惡俱ニ無期ナルハ、頗ル粗笨ノ理ニシテ、又其所謂造人說、割肋爲女說、處得懷胎說ノ如キハ、頗ル奇怪ノ所說タラザルヲ得ザルナリ。要スルニ此教旨モ亦生死直線論ニシテ、一回ノ未來ヲ立テシニ止マリ、未ダ轉生ノ理ニ達セザリシモノナリキ。而シテ其善惡ノ應報ニ對シテハ、單ニ個人本位ヲ執ルモノニ過キザルナリ。

因ニ記ス、我國ノ神道ノ如キハ、其論儒耶二教ヲ合攝シタルモノニ同ジク。初メニ神靈ノ分子ヲ受ケテ降生シ、迷悟ノ如何ニ由テ、其死後ハ歸天歸幽ノ別ヲ生ズト爲シ、且ツ禍福ノ子孫ニ及ブベキヲモ説クヲ

以テ、個人本位、兼家族牽連的應報說ナリトス。而シテ其生死ニ對シテハ、間々轉生ヲ説キテ、特ニ或ハ皇族ノ靈ハ、再ビ皇族ニ生レ、平民ノ靈ハ、尙ホ平民ニ生ルテフ説ヲ爲スモノアルモ、是レ實ニ狹隘ナル轉生說ニ屬シテ其一ハ國體ニ媚ビ、他ノ一ハ遺傳論ヲ變態セシメタルモノトコソ謂フベケレ。然ラザルモ、我國體ノ神聖ヲ保ツニハ、自ラ他ニ其道ナキニアラザルナリ。況ンヤ又此說ハ算數ノ上ニ於テ、到底容ルベカラザル所アルモノナルニ於テヲヤ。

思フニ一回ノ未來ヲ認メテ、其轉生ヲ説カザルモノハ元ヨリ現世說ト異ナルナキノミカ、寧ロ其所説ノ拙劣ナルヲ免レザルベシ。既ニ一回ノ未來ヲ認ム、何ゾ轉生ヲ論ジテ、善惡ノ應報ノ理ヲ悉サバレルヤ。

惟ルニ現世的生死直線論ニ對スル世ノ非難ハ、一ニ善惡ノ業報、緻密完全ナラズシテ、勢ヒ世道ヲ扶殖スルノ功全カラズトナスニ在リ、然ルニ一回ノ未來ノミヲ認ムル有神說ノ如キモ均シク斯ル非難ヲ免レザルノミナラズ其粗笨不當ノ制裁ハ、寧ロ制裁ナキニ若カザルノ或ナクン

ハ非ザルナリ。

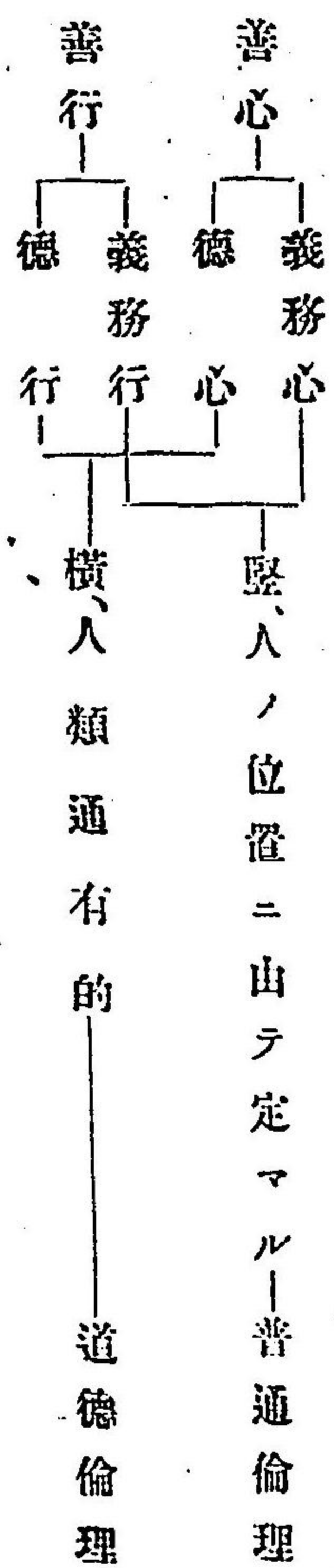
三、進化論的倫理說

夫レ人類ノ最先ハ、無機ヨリ漸次ニ動物ニ進化シ、下等動物ヨリ次第ニ高等動物ニ進化シ、其死ト共ニ萬事休ストノ説ハ、善惡業ニ對シテ死後ノ應報ヲ論ズルニ由ナク、又實驗以外ノ事ハ務メテ之ニ論及セザルヲ本意トスルヲ以テ、勢ヒ現世ニテ其善惡應報ヲ完結セザルベカラストス、左レバ是等ノ學說上、善惡業ノ應報ニ對スル見解ヲ按ズルニ、善惡ノ應報上ニハ、自然（狭義ノ自然ヲ指シキ若シ廣義ノ自然ニ從ハバ）法律、社會等ナル客觀的制裁ノ及バザル點ニアリテハ、之ヲ主觀的良心ノ制裁ニ歸セシメザルヲ得ザルモノトセリ。（主觀良心ノ制裁ハ客觀的制裁ノ及バザル點ノミニ非ル制裁ノ嚴密ナ）抑々良心ノ制裁トハ、苦樂ノ感ナレバ、則チ惡業者ハ假令客觀的ニ富貴、壽康ノ幸福アリトスルモ、其主觀的ニ良心ノ制裁タル苦痛ノ感念ハ、間斷ナク呵責シツ、在ベシト。然レドモ其良心モ亦絶對ノモノニ非ズシテ、漸ク惡ニ慣ル、トキハ自ラ萎靡衰弱シ來リテ大ニ制

裁ノ効力ヲ失フコトアリトハ、心理學上ノ確説ニシテ、又當ニ然ラザルヲ得ザルモノ、如シ。果シテ然ラバ、良心ノ制裁モ、亦復完全ナルモノニアラザルベク、既ニ善惡ノ裁制全カラズトセンカ、人誰カ苦ンテ善ヲ爲シ、惡ヲ避クルモノアラン、斯クノ如クンバ、即チ人世ノ公道ハ忽チニシテ破壊シ去ルニ至ラン。是ニ於テカ、宗教家ハ、乘ジテ以テ、宗教的未來制裁ノ必要ヲ説ケリ。而シテ吾人ハ其ガ宗教的制裁ヲ不可ナリトスルニハ、非ラザルモ、此難問ニ對スル制裁ハ、更ニ他ニ其道ナキニ非ザルヲ以テ、今吾人ハ之ヲ茲ニ詳説センニ

抑々人生究竟最大ノ目的ハ自在ニ在リ。自在トハ、圓滿ナル生活、即チ安全ノ謂ヒニシテ、客觀的幸福ト、主觀的快樂ヲ其内容ニ包括セザルベカラズ。而シテ其之ニ達スルノ手段ハ、總テ善ニシテ、其之ニ遠カルノ手段ハ悉ク惡ナリトス。(茲ニ一頁スベキハ倫理學說上、快樂又ハ幸福ヲ以テ人モ非ズシテ、善ニ伴フノ影像、其目的ヲ達シ得タル時ノ心意ノ狀態ニ過キズ。又幸福ハ、善ヨリ生ズル吾人ノ外部ノ狀態ニシテ、目的ノ裏面ニ包攝セル自然ノ願望ヲ形容セルモノニシテ、所謂幸福ハ、目的ニ伴フノ影像ナリ。左レハ幸福快樂ノ二者ハ、共ニ目的或ハ善ノ内容タルベキモノニシテ、快樂モ、幸福モ、單獨ニテハ必ズシテ善ナラズ、又目的トスル足ラザル

ナリ然リ而シテ、人生ノ目的ハ、實ニ惟一ナラザルベカラザルモ、其手段ハ多數ナルヲ妨ゲザルヲ以テ、之ガ手段タル善ハ、人ニ由リ、時代ニ由リ、社會ニ由リテ、或ハ同ジク或ハ異ル所アルモ、敢テ不可ナキノミナラズ、亦自ラ然ラザルベカラザルモノアリトス、故ニ甲ノ社會、甲ノ位置、甲ノ性能ニ執テハ善ナルモ、乙ニ在リテハ、却テ惡ナルコトアリテ善ノ内容モ、自ラ複雑多樣ナルヲ免レザルモノナリ、惡モ亦推シテ知ルベシ、例バ彼ノ殺人ハ普通社會ニ容レラザル所ナルモ、却テ善タルコトヲ得ベキモノアルガ如シ。以上ノ如ク善惡ノ手段ハ定ニ複雑多樣ナリトスルモ、其間又自ラ動カスベカラザル一貫ノ條理アルベケレバ、今ヤ吾人ハ順次之ヲ左ニ解決セント欲ス。而シテ其善惡ハ之ヲ心行ノ二別即チ善心ト善行、惡心ト惡行トニ別タレツ、此二別ハ又各々積極消極、或ハ堅横ノ二様ニ分タル。



又善惡ヲ心ト行トニ互配スレバ左ノ九様トナルベシ。

善心善行、善心悪行、善心無行、

悪心善行、悪心悪行、悪心無行、

無心善行、無心悪行、無心無行、

茲ニ注意スベキハ、無心無行ガ、猶ホ善惡タルノ理由ナリ。夫レ無心無行ハ、全然不爲ナリ、不爲ハ消極ノ爲ナリ、左レハ善ヲ爲シタル後敢テ之ヲ心ニ止メズ、又誇ラザルハ、無心無行ニシテ、併モ亦善ナリ又惡ヲ爲シテ更ニ念トセズ、又改メ謝スルノ行ナキハ、無心無行ニシテ猶ホ惡タルヲ免レザルナリ。

而シテ又、此心ト行トニハ、各々輕重アリ、一再アリ、且ツ輕重ノ内ニモ、亦

其行ニハ、對物ノ輕重、即チ殺人ト殺獸、弑親ト復讐等ノ如キアリ所作ノ輕重ニハ、殺ト慘殺トノ別アリ、心ニモ、亦謀意故意ノ別アリ、而シテ又心行共ニ、未遂、既遂ノ別アリ、其未遂ニハ、又自制的ト他制的トアリ、既遂ニモ、亦自勵ト他勵トノ別アリ。

因ニ記ス、無心ナルモノニモ、亦輕重ノ別アリトハ抑何故ナルヤト云フニ、平常之ヲ注意スルモ止ムヲ得ザルモノト、毎ニ不注意ナルヨリスルモノトノ別アルガ如シ。次ニ又無心ニモ、謀故ノ別アリトハ、自ラ穩當ナラザルニ似タルモ、必竟謀故的ノ區別アルモノノ如シ、例ヘバ今人惡ヲ犯サン爲メニシテ、酒ヲ用キタルニ、飲酒ノ爲メニ却テ之ヲ失忘停止スルニ至リシモ、却テ醉狂ノ爲メヲ以テ、更ニ他ノ不用意ノ惡ヲ爲シタリトセンカ、是レ之ヲ普通ノ無心ト同視スベカラザルヤ明ナリ。而シテ又前ニ所謂注意、不注意ノ別トモ、勢ヒ其趣ヲ異ニセザルヲ得ザルベシ。

斯ク善惡共ニ多樣ニシテ、輕重ノ中ニモ亦輕重アリ、謀故ノ中ニモ同ク

大小アリテ、其之ガ自乘相乗ノ積ハ、幾百千ナルヤヲ知ル能ハザルニ至ルト雖モ、亦又之ヲ概括スレバ、徳、不徳、義務、不義務ニ歸納スルコトヲ得ルモノトス。

抑々人生自在ノ目的ヲ達スル手段ハ善ニシテ、其之ニ反スルモノハ惡ナリトハ、形式抽象ノ標準ニ過ギスシテ、善惡ノ實質ハ、斯ル形式ノ標準ニテハ知得スル能ハザルヘシ。左レバ今善惡ノ實質、眞義ヲ窮明セント欲セバ、更ニ他ノ方面ニ向テ之ガ標準ヲ求メザルベカラズ。而シテ彼ノ倫理學上ニハ、之ニ對シテ動機論ト、結果論トノ二見解ヲ出セリ。其動機論ニ在テハ、善意ヨリ發スルノ行爲ハ、之ガ結果ノ如何ニ關セズ善ナリト決シ。其結果論ニ在テハ、功利善行ノ果アルモノハ、動機即チ心意ノ善惡如何ニ關セズシテ善ナリトナスモノナリ。今此兩説ヲ取り、善惡九様ノ區別ニ照シテ、其當否ヲ論ゼンニ、此動機論ハ、善心惡行、又ハ無心爲、不爲ニ對シ、結果論ハ、惡心善行、又ハ惡心無行、無心無行ニ對シテ、何等ノ解釋ヲモ與フルコト、能ハザベキ歟。要スルニ善心ナレバ、其行爲ノ結果ニ

責任ナシトスルカ。(自然ノ制裁ハ免ル)又其行爲ノ結果ガニ善功ナレバ、縦令善心ナラザルモ制裁ナシトスルカ(良心ノ制裁ハ)甲ハ實際ニ於テ不利ナルモ責任ナク、乙ハ偽善ヲ尊重スルニ至ルベク、又其甲ハ、輕忽ヲ獎勵スルノ致ニシテ、乙ハ奸譎ヲ鼓舞スルノ説タルヲ免レザルヲ如何セシ。蓋シ善惡ノ標準ナルモノハ、到底斯ル一方ニ偏シ、又然カク簡單ニ斷定シ得ベキモノニ非ズシテ、殊ニ吾人ノ見ル所ニテハ、動機論ノ所謂良心モ、亦絶對ノモノニアラズシテ、時々知力ノ指導ヲ待チ、始メテ其傾向ヲ定ムルアリ、又結果論ノ主トスル知力モ、固ヨリ良心ノ取捨ヲ蒙ラザルベカラザルアリテ、結局良心ト、知力トノ一致、即チ動機論ト、結果論トハ調和ヲ以テ、善惡ノ標準トナサルベカラズトス。然リ而シテ、又此良心ト知力トノ一致ニハ、自ラ其一致ノ程度、即チ知力ノ活動シ得ベキ範圍、權限ナルモノノ存スルアリテ、其知力ハ、將ニ行動セントスルノ事項ニ對シテ、此ハ自己ノ本分ナリヤ、否ヤトヲ判斷スルヲ以テ足レリトシ強テ其結果ノ利、不利ニ及ブヲ要セズ、寧ロ其之ニ及バザルヲ以テ可ナ

リトス。

抑々本分ニハ、積極的ト、消極的トノ二アリテ、積極的本分ハ、所謂徳心徳行ニシテ、斯ハ一見判定シ易ケレバ、良心單獨ノ指發ニ任スルモ、敢テ誤ルコトナキニ近ク、消極的本分トハ、即チ義務的本分ニシテ此義務の本分ハ、錯雜糾紛、容易ニ知リ難キニ似タルモ、之ヲ實行スルニハ、却テ易々タルノミナラズ、若シ之ガ實行ヲ欠クトキハ、則チ普通ニ人タル資格ヲ失ヘルモノナリトス。而シテ又本分ナルモノハ、人ノ位置、性能ニ應ジテ異ナルモノニシテ、其位置トハ、或ハ國家、或ハ社會ノ區別、若クハ君臣、父子、夫婦、長幼、公私等ノ社會的、將タ倫理的階級ヲ指シ、其性能トハ、賢愚、病健等ノ區別ニシテ、各自ガ此位置性能ノ如何ヲ顧ミツ、斯ハ自己ノ本分ナリヤ、否ヤトヲ判知スルニ至リシヲ以テ、始テ善惡ノ標準ヲ明ニスルコトヲ得タリシモノ謂フベキ也。然ルニ此知力良心一致ノ本分説ヲ以テシテ、更ニ又左ノ難問ヲ生ズルコトアラン。

(一) 或事項ニ對シテ、吾人ガ其本分知リ難キ場合アランニハ、勢ヒ動

機又ハ結果ノ孰レニカ率山セザルベカラザルニアラズヤ。

此問題ハ、獨リ本分説ニノミ發生スルニアラズシテ、彼ノ動機論及結果論ニモ、同ク發生セザル能ハザルモノナリトス。夫レ動機良心ノ可トスル所、必ズシモ一ナラズ、結果ノ利害モ、亦區々ニシテ、其眞義ノ容易ク決定シ難キハ、蓋シ本分ノ知レ難キニ比シテ、轉々其困難ヲ覺ユルコトアルナラン、且ツ又本分ノ知レ難キハ、極メテ稀ニシテ、其孰レガ本分ニ近キヤ、否ヤ等ノ如キ多少ノ分別アルベケレバ、則チ其之ニ近キモノヲ取テ實行セバ、假令其結果ノ本分ナラザリシトスルモ、之レ即チ不可避的ノ過失ニシテ、(動機論、果結論ノ粗忽、偏善)皆社會萬般ノ不完全ナルヨリ發生スル自然ノ結果ナレバ、之ガ錯誤ノ責任ノ如キ自己悉ク負担スベキモノニ非ズトス。又到底其本分ヲ判斷シ難クンバ、假令袖手傍觀スルモ敢テ不可ナル所ナク、從テ此不爲ニ對スル責任アルノ理ナシ。

(二) 本分内ノ事ヲ、本分外ト信ジテ爲サバリシ時、若クハ本分外ノ事ヲ、本分内ト信ジテ爲シタル時。

是等ノ問題ニ至リテハ、元ヨリ過失制裁論ナレバ、則チ其過失タルコトヲ發見セバ、必ズヤ改善ノ責任アルモ、其之ヲ發見セザルニ於テハ、敢テ責任ナキモノナリ、然レモ社會ニ在テハ、決シテ其不調和ノ責任ヲ免レザルヤ勿論ナリトス。

(三) 本分内ノ衝突

本分内ノ衝突トハ、所謂善ノ衝突ニシテ、其孰レヲ爲スモ、均シク善タルヲ失ハズト雖モ、若之ヲ知り得ベクンバ、必ズヤ其急ニシテ且ツ大ナルモノヲ撰バザルベカラズ、然レドモ實際上之ヲ知測シ難カリシ時ハ、其急且ツ大ナルモノヲ撰バザリシニ對シ、敢テ、何等ノ責任アルコトナシ

(四) 危急ノ場合思慮ノ餘地ナキ時

凡ソ本分ヲ思慮スルノ餘地ナキ場合ノ如キハ、實際上ニ於テ、殆ンド之レ有ルコトナシト雖モ、苟モ之レ有リトセンカ、吾人ハ正ニ其孰レヲ取ルモ、其行爲ノ無責任ナルヤ知ルベキノミ。

(五) 本分ヲ誤リ、又ハ本分ヲ超エタル行爲ニシテ、往々社會ノ歡迎ヲ

受ケ、本分行爲ヨリモ、却テ善ナルガ如キモノアリ、已ニ善ト信ゼラル、
一モ、敢テ本分ヲ超ユベカラザル乎。殊ニ又其本分行爲ガ却テ害トナルアリテ、之ヲ爲サレバ、其害ヲ避ケ得ルガ如キ場合ハ如何。

是等ハ惡ノ化裝、善ノ變體、即チ畸行矯節ニ過ギズシテ、到底大中至正ノ公道ニ非ズ、正ニ是レ社會ノ顛倒ニ出ヅルモノナレバ、其責任ハ一切社會ニ属スルモノトス。

上來ノ本分說ニ由リテ、善惡ノ業報ヲ現世一代ニ全カラシメンニハ、自然、法律、社會、良心等ノ制裁ヲ交互ニ加配スレバ、殆ンド盡サマルコトナシ。是ヲ以テ其屢々惡ヲ爲ス者ニシテ、良心ノ制裁力薄弱ナリトスルモ、自餘ノ自然、法律等ノ制裁ハ、必ズ之ヲ許サマルベク、又常ニ惡心ヲ蓄フル者ハ、縱令之ヲ其行爲ニ發助セザルモ、終ニ社會ハ自然ニ之ヲ排斥シ從テ自己モ、亦自ラ其苦痛ヲ免レザルベシ。故ニ究竟スレバ彼ノ惡心善行ノ偽善者ハ、社會漸次ニ之ヲ嫌厭スベキノミカ、又自ラ精神ノ苦痛ヲ

感シ、從テ自然ノ制裁ヲ加ヘラル、コトアラシク、若シ又偽善者、惡心者、或ハ屢々惡ヲ爲ス者ニシテ、其慣レテ苦痛ヲ感ズルナキニ至リ、社會モ亦之ヲ排斥セズ、爲ニ其者ヲシテ、益々惡ヲ逞フセシムルガ如キコトアラシカ、是レ皆社會顛倒ノ罪ニシテ、其責任、主トシテ社會ニ在リト謂ハザルベカラズ。之ヲ一部ノ社會連帶責任説ト爲ス。

要スルニ善惡應報ニ於テ個人ガ本位タルベキハ勿論ナルモ、其家族、社會モ亦之ヲ分擔セザルベカラザルコトアルハ自然ノ情勢ナリトス。



吾人ハ上表ノ如クニシテ善惡ノ應報、殆ント全キモノナルヲ信ズ。

本分問題ニ就テ、茲ニ附記スベキハ、忠孝ト本分トノ關係ナリ。彼ノ忠孝不二論ニ、我々皇室ハ、萬世不易ノ君家タルト同時ニ、臣民ノ宗家ナレバ、忠即孝ナリト。又儒教ニハ親ヲ基トシ、孝則忠ノ意ヲ論ゼリ。忠孝

ノ不二ナルハ固ヨリ論ナシ。然リ而シテ、其忠孝ナルモノハ、亦全ク吾人ノ所謂本分行爲ト別在スルモノニアラザルナリ、彼ノ軍人ガ、君國ノ爲ニ戰死スルガ如キハ、固ヨリ其忠タルヤ明カナルモ、其戰死ヲ以テ直ニ忠ナリトスルニアラズシテ、寧ロ軍人タルノ本分ヲ全クセルガ故ニ、引テ以テ忠タルコトヲ得ルモノナリ。又重要ナル劇務ニ在ル官人ハ、父母ノ病ヲ省ザルガ如キコトアリシトテ、強チ不孝ニ非ズシテ、其病ヲ省ンガ爲ニ、妄ニ要務ヲ缺クニ至ランカ、勢ヒ本分行爲ヲ全ウスルヲ能ハザルヲ以テ、引テ不孝タルヲ免レザルベシ、苟モ區々タル劣情ヲ捨テ、一ニ本分ニ據ランカ、決シテ忠孝ハ兩全シ難キ等ノ理アルコトナシ。是ヲ以テ吾人ノ本分説ハ、一切ノ問題ヲ解決シテ、毫モ不足ナキヲ信ズルニ足ラン。

四、轉生説

轉生説ニニアリ、一ハ段階轉生説ニシテ、二ハ各界轉生説トス、段階轉生説トハ、

人ハ死シテ又人ニ生レ、畜ハ死シテ又畜ニ生レ、決シテ各自ノ「階級」ヲ乱ルコトナシ。而シテ其美醜、賢愚、健病等ノ差別アルハ、是レ即チ前生善惡業ノ應報ナリ。

此說ハ、各界輪廻說ノ指シテ以テ常見ノ偏說ト爲スモノニシテ、總テ物ハ其固着性ヲ有スベシトノ點ヨリ立論セルモノナレバ、自ラ一理ナキニアラザルモ、甲階ノ下點ト乙階ノ上點トハ、常ニ相密接シテ判別シ難ク、必竟階級ハ、其部分ノ大体ヲ區別スベキ形式上ノ假定タルヲ知ラザルニ出ツル僻見ノミ。殊ニ又數理上ノ推測ヲ用フルモ、人畜ノ繁滅ハ、自ラ其數ヲ異ニスベケレバ、到底不合理タルヲ免レザルベキ乎。且又其人ニシテ、或ハ畜ニ劣ルノ惡者アリ、若クハ畜ニシテ人ニ勝ルモノナキニシモアラザレバ、是等ヲ括シテ段階ノ轉生說ニ歸セシメン、猶ホ前項(有神)ニ所謂大小一網ニ打スルテ非難ヲ解ク能ハザラン乎。

各界轉生說ハ、所謂佛教ノ生死論ニシテ、抑モ佛教ノ十界ナルモノハ或ハ是ヲ以テ社會ノ階級、或ハ箇人ノ思想ノ轉昇轉降スル次第、或ハ動物

ノ種族、或ハ國土ノ差別、或ハ學術教法ノ差異トモ觀ズルコトヲ得。且又人類、及社會、國家發達ノ順序トモ、相應スルヲ觀ル。(後編各論十(界圖說參照))

抑々轉生說ニ於ケル轉生ノ源由、順序ヲ觀ルニ、其原因ニハ、近遠ノ二因アリテ存シ、其近因トハ、彼ノ業力所感ノ謂ニシテ、即チ前生ニ於ケル善惡ノ業力ガ、自ラ引滿ノ二業ニ分レ、遂ニ之ニ應ジテ總、別ノ二報ヲ生ジツ。引業、即チ重善惡業力ニ由テ、十界中ノ人畜、孰レニカ生マルベキ總報ヲ受ケ、次ニ又滿業、即チ善惡業ニ附從スル第二ノ善惡業、(又ハ輕善惡業、或多果ノ理)ニ由テ、美醜、健病、貧富、貴賤、壽夭等ノ別報ヲ受クベキモノトナセリ。又其君臣、父子、兄弟、師友、等ノ因縁アルヲ、同業同果ト云フ。(一ハ引業總報ヲシムル媒介トナルモノトス)此說ニ於テハ父母ノ如キハ、生起ヲ媒介スル一ツノ縁タルニ過ギズシテ、吾人生起ノ真因トハ認メラレザルナリ。加フルニ又佛說ニテハ、吾人ノ鼻祖ヲ天人ノ下生セルモノト爲セリ。蓋シ此說タル、彼ノ進化論トハ、全ク正反對ナルガ如キモ、要スルニ轉化ヲ兩端ヨリ觀察シタルノ差ニシテ、殊ニ其天人ト稱スルモ、吾人人類ノ如キ

形體ヲ備ヘタルニ非ズ、殆ンド無形ノ勢力トモ謂ベキモノニテ、此天ハガ、体量四肢ヲ生ジ、衣食ヲ要スルニ至リシハ、頗ル時間ヲ經過セシ後ナリトナスヲ見レバ、彼ノ無機開發トスル進化論ト、其情勢全く同様ニシテ、畢竟同一ノ形態ニ對シ、開進ト、退歩トノ表裏的觀察ヲ爲シタルニ過キサルモノナリ。蓋シ直線論ニ在テハ、開進ト見ルヲ當然トシ、循環說ニ在テハ孰レト見ルモ不可アルコトナク、又十界輪廻說ニ在テハ、之ヲ退歩トスルヲ、本意ニ適ヘルモノナリトス。特ニ又此說ガ、其男女ノ區別ヲバ、各自慾意ノ多少ヨリ、自然ニ分岐セルモノトナスガ如キ、頗ル趣味ノ深キヲ覺ユルナリ。

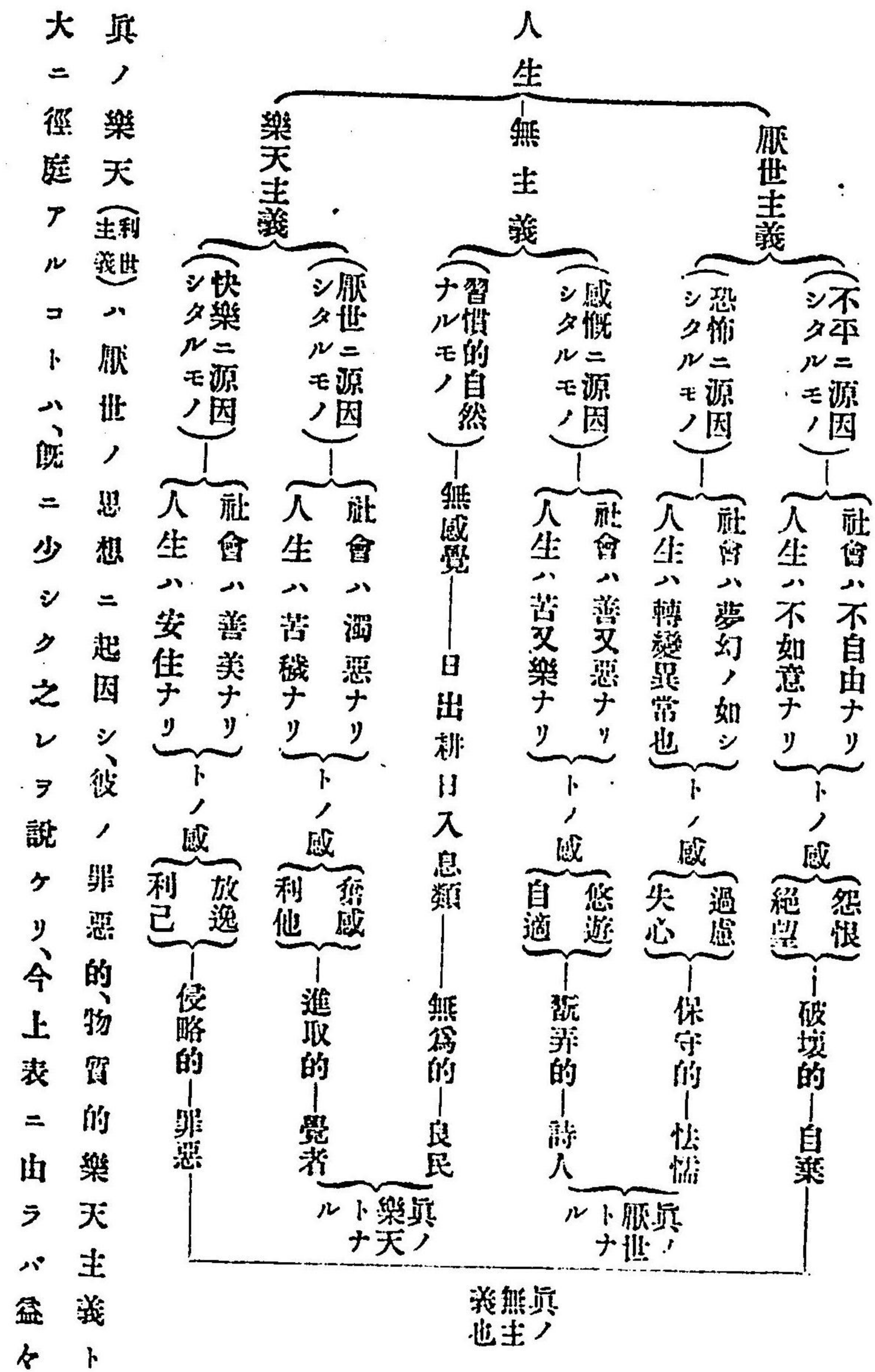
次ニ遠因トハ、生死流轉開始ノ本源ヲ指スモノニシテ、之ヲ眞如ト云ヒ如來藏ト云ヒ、阿賴耶ト云ヒ、六大ト云ヒ、五蘊ト云ヒ、種々ノ派別アリ、從テ、深淺ノ差異、事理ノ區別アルモ、要スルニ此原因カ、根本無明ナル迷妄ト化合シテ、以テ吾人ノ起源トナルモノナリトナセリ。而シテ其眞如ト迷妄トノ化合作用ガ、世界人類ノ起源タダトノ說ハ、儒道ノ陰陽二氣化

合說ト相似タルモノニシテ、唯々其所說ノ頗ル婉曲巧妙ナルガ如キヲ見ルノミ。

然ルニ世人往々、佛說ノ眞意タル眞妄和合ノ理ヲ察セスシテ、其無明迷妄ガ人生ヲ發起スト云ヘルノ語ヲ見テ以テ、此說ノ本義ガ人生ヲ單ニ迷妄ノミノ現象トナスモノナリト思惟シテ之ヲ非難スル者アルモ、是レ蓋シ誤解ノ甚シキモノト謂ベシ。又吾人ハ茲ニ一步ヲ讓リテ人生ヲ單ニ迷妄ノ現象トナスモノトスルモ、是レ有限無限又ハ十界中ニ於ケル高下ノ對比上ヨリ出タル觀測ナレバ、決シテ其理ナキニアラサルベキヲ信ズルナリ。左レバ此迷妄論ニ對スル非難ハ一ニ佛說ノ立脚点ヲ察セザルヨリ出ツルモノニシテ、今吾人ノ見解ヲ以テスレバ、抑モ無限ノ神ニ對シテ有限ノ吾人ハ正シク迷妄又ハ迷妄ノ方面ヲ現ハシ居ルモノタルヤ勿論ナルベク、又十界ヲ四聖六凡ニ分チ、六凡中ニテハ人天ヲ以テ上乘トナセバ、吾人ハ人界以下ノ鬼畜等ニ對シテハ當ニ靈長ニシテ覺悟ノ方面ニ在ルモノナルヤ明ケシ。特ニ又吾人ハ自己ヲ開展シ

テ無限ニ達シ得ルモノトスレバ、其未タ達シ得ザル有限現時ノ人生ハ迷妄ノ執着ナリト云フニ於テ何ノ不可カアラン。蓋シ迷妄ト云ヒ覺悟ト云フ、彼此比較上ノ程度ノ記數辭タルニ過キザルモノナレバナリ。又佛說ニ、人生ハ迷妄ノ執着ナレバ之ヲ脫離シテ速ニ淨界ニ赴クベシトノ語アルヲ見テ、之レ正ニ厭世ニシテ人生ヲ無視スルモノナリトノ非難ヲナスモノアリ、此非難ハ彼ノ迷妄ノ誤解ヨリ自然ニ發生シタルモノナレバ、苟モ迷妄ノ真義ヲ明ニセバ此非難ハ忽チ氷解スルノミナラス、元來佛說ニハ方便門ト真理門トアリテ、所謂迷妄論脫離論ノ如キハ其初步ニ於ケル方便ノ教義ニ過キザルナリ、今其真理門ヨリスレバ或ハ厭世ヲ菩薩ノ死ト云ヒ、又無爲ニ墮スルハ死ヨリモ惡ナリト云ヒ（毗婆娑論）。真如佛法、我レニ備レバ身ヲ捨テ、他ニ何ヲカ求メント云ヒ（心經秘鍵）。治世語言資生產業等皆實相ト相違背セズト云ヒ（法華經）。世間相ヲ壞セズシテ出世間相ヲ成ズト云ヒ（華嚴經）。當相即道即事而眞ト云ヒ（大日經疏）。大貪大痴是三摩地ト云ヒ（理趣經疏）。大悲爲根ト云ヒ（菩提

心論）。眞俗相資ト云ヒ。王法爲本ト云ヒ。禪門ニテモ無爲禪定ヲ尙フハ練心悟道ノ爲メニシテ、大悟徹底ノ曉一切ノ毀譽褒貶ニ關セズ、直前奮進大事ヲ企ツルノ準備ナリト云フガ如キ、孰レモ至極ノ樂天主義ニアラザルハナク、從テ又現世的ナラザルハナシ。吾人ハ今茲ニ樂天、厭世兩主義ノ由來關係ヲ表記シテ之カ參照ニ供センニ。



其明瞭ナルヲ得ン。佛教初步ニ於テ其厭世的ナルハ、蓋シ此ノ眞ノ樂天ニ導カンガ爲ナラン乎。又彼ノ詩人等ノ如キ樂天的ナルモノアルモ、是レ吾人ノ所謂樂天即チ救世利民的トハ稍々其意ヲ異ニスルアルヲ以テ、之ヲ樂天ニ入ルベカラザリシ。

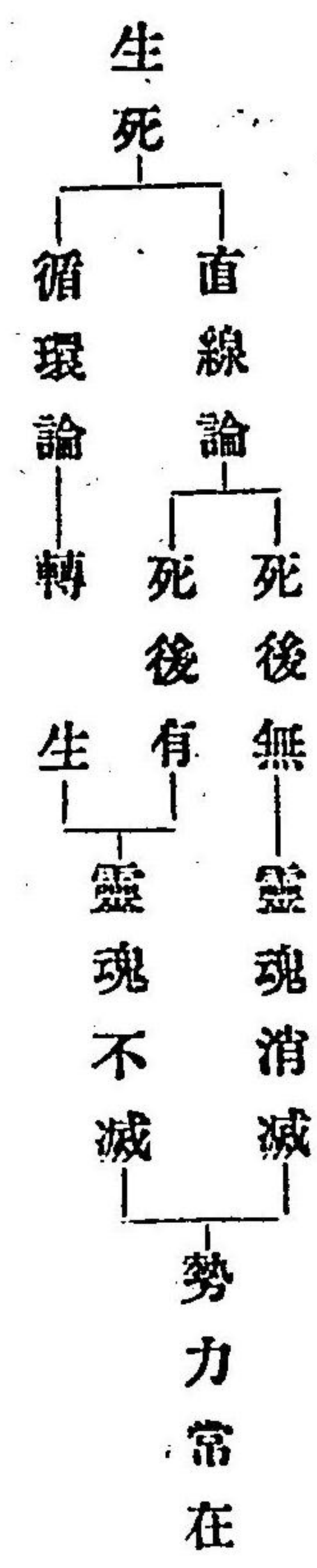
佛教ガ人生ヲ迷妄トセルハ前述ノ如ク、其一半ノ資性ヲ指セルモノニシテ、苟モ一念三千ノ妙理、十界本具ノ眞義ヲ覺悟スルトキハ、幾多ノ疑難、忽チ氷解スルコトヲ得ベシ。左レバ吾人ハ、茲ニ十界本具ノ理ヲ解説シテ、各界轉生說ノ本義ヲ明ニセンニ抑々吾人ハ、元來十界ヲ具シテ遺ス所ナク、特ニ人界以外ノ他ノ九界モ亦各々十界ノ迷悟善惡ヲ具ス、是レ則チ各各自建立說ナリ。然ルニ吾人ハ、自己ノ具有セル十界中、人界ノ方面ノミヲ現ハシ、自餘ノ九界ヲ裏面ニ隠シツツ發動セシメザルモノニシテ、他ノ鬼、畜、佛、地獄等ノ九界モ亦復タ然リトス、之ヲ各各守自性ノ理ト云フナリ。而シテ其守自性ノ條理ヨリスレバ、十界各々差別アリテ、各自ノ方面ヲ固守スト雖モ、亦其自建

立ノ點ヨリスレバ、一切平等ニシテ、佛、凡、鬼、畜會テ差異アルコトナク、均シク自己ニ一切ヲ収メテ、俱ニ絶對無限性ナリトス。(一念三千ノ理、之ニ更ニ其趣ヲ同クス)又守自性ノ理ヲ以テセンニ、人生ハ、人界以下ノ四界ニ對シテハ悟、且ツ自在ナルモ、其以上ノ五界ニ對シテハ、迷且ツ不自在ナルヤ明カナレバ吾人人生ハ、何ヨリスルモ、迷悟具存ニシテ、全ク迷妄ノミニ非ズ、又專ラ覺悟セルノミニアラズ、所謂本迷、本悟、性善、性惡トハ、蓋シ此意ニ外ナラジ。既ニ吾人自己ニ、迷悟ノ十界具足スレバ、則チ自己ノ業力ノ相應スル所、或ハ降テ鬼畜界ニ陥リ、或ハ昇テ佛菩薩界ニ座スルヲ豈ニ難シトセシヤ。要スルニ人間ノ迷妄煩腦ハ、固ヨリ其本具ナルヲ以テ、決シテ之ヲ斷滅スベカラサレバ、唯々之ヲ抑制シテ、悟真ノ上界ニ其位置ヲ變換セシムルニアルノミ。既ニ迷妄煩腦ヲ抑制セバ、悲智ノ妙德忽チニ顯現シテ、凡身即佛ノ境界ニ至ルベキナリ。若シ夫レ斯ノ如クンバ、佛地ニハ一切ノ煩腦ヲ現ハサザルヤト云フニ、決シテ然ルニアラズシテ、寧ロ吾人ニ勝レルノ大煩腦アラン。是レ則チ化他救濟ノ念願ニシテ、大貪、大痴ヲ

淨菩提心、三爲摩地ト爲スハ、蓋シ此意ニ外ナラジ。左レバ佛トハ、吾人ガ利己的小煩腦ヲ開展シテ、利他的大煩腦ニ進化シタルモノトモ觀ゼザルベカラズ。蓋シ利己ト利他、悲智ト貪痴トハ、大ニ其客觀ヲ異ニスルモ之ガ本源ハ、元ヨリ同体同質ニシテ、只其大小程量ノ差異タルニ過ギサルナリ。終リニ、上來ノ所說ヲ融會シテ、各界轉生ト謂ハンヨリモ、寧ロ吾人ガ迷悟煩腦ノ程度ニ由リテ、之ニ相應セル世界ノ、各自ニ發現スト云フヲ以テ真意ト觀ゼザルベカラズ。

第六節 靈魂論

靈魂論ハ、必ズ生死論ニ相伴ヒテ、先ヅ左ノ如キ區別アルヲ見ル(靈魂ナルテハ種々ノ論義アルモ、吾人ハ靈魂意識等ヲ同意味ニ混用ス)



吾人ノ靈魂ハ死ト俱ニ消滅ストスルモ、其善惡業ノ勢力ハ、永劫無窮ニ亘ルモ曾テ消滅スルコトナク、展轉シテ後人ニ感化ヲ及スモノナルハ既ニ之ヲ論述シタリ。然レバ其感應ヲ後人ニ及ボスハ轉生ノ理ト異ルヲナク、又後人ガ其感應ニ由リテ善惡業ヲ作爲シ從テ、之ガ應報ヲ受クルコトアルハ、即チ未來ノ存在、未來ノ應報ト云フモ亦不可ナキナリ。是ヲ以テ吾人ノ所謂活動力ナルモノハ、縱令一タビ、此ニ消滅ストスルモ勢力常在ノ理(或ハ宇宙ノ實體本有常住ノ理)ニ由リテ、何レノ所ニカ存在シ、何レノ時ニカ發動セザルベカラザレバ、是レ即チ靈魂不滅轉生ノ説ト其理敢テ異ナルコトナシ。

靈魂不滅轉生論中ニハ、靈魂ノ有形、無形、及轉生ノ順序方法等ニ就テ或ハ色心不離説、或ハ物質不滅勢力恒存説、或ハ遠心求心ノ引力説等ヨリ。之ガ解説ヲ試ル者ナキニアラザルモ、是レ頗ル超域的ノ問題ニシテ、或ハ其誤解ヲ招キ、或ハ信認ヲ求ムルノ難キヲ以テ、吾人ハ却テ各自ノ造詣ヲ埃ツノ勝レルニ如カザルヲ信ズ。左レバ唯茲ニハ人生

ノ活動力、善惡業ノ勢力ハ、全ク不滅ニシテ、未來無盡際ニ展轉シテ、其應報ヲ享受セザルベカラザルモノナルヲハ、學理上、實際上與ニ爭フベカラザルノ確説ナリト云フヲ以テ足レリトセン。

生死論、靈魂論、善惡應報論ハ、上述ノ如ク、異説紛々タリト雖モ、勢力常在活動力ノ轉傳ヲ主トスル吾人ノ見解、及現世ニ於テ無限ニ進化シ、自在ヲ得ントスル即得同化ノ宗教組織ニハ、毫モ此等諸説ノ影響ヲ受クルヲナク、又一トツシテ衝突スルヲモナキノミナラズ、各説共ニ、悉ク吾人ガ所論ノ内容タルベキモノナリトス。

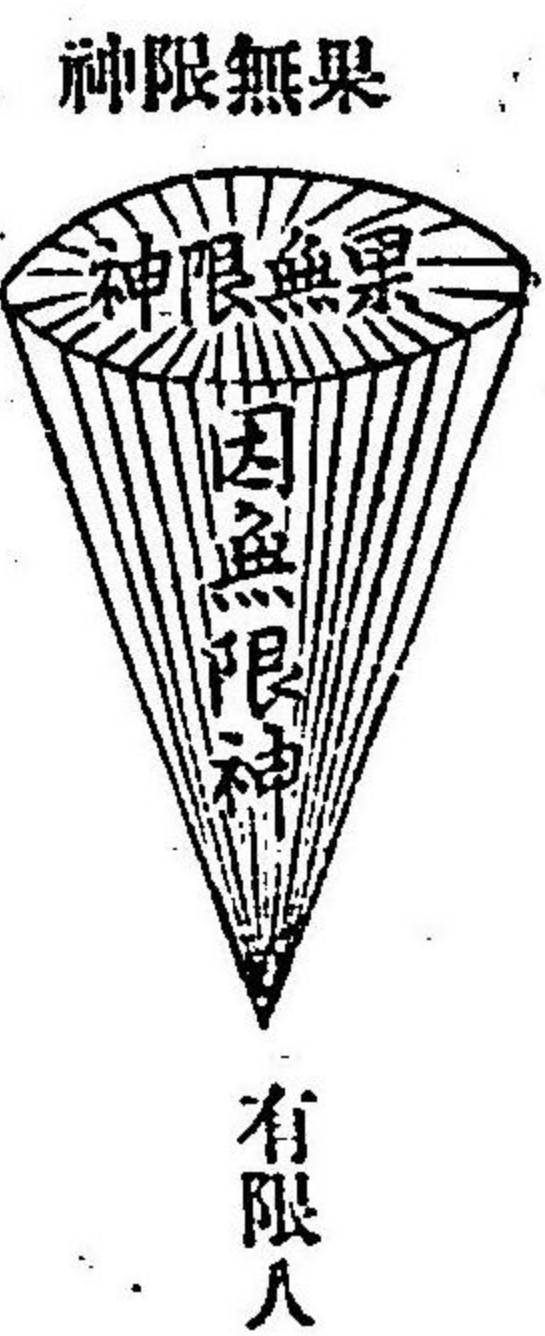
第五章 宗教主体ト宗教客体トノ關係

第一節 神人互具

有限相對ノ悉皆ヲ統合スル者ハ、無限絕對ノ宇宙ニシテ、之ヲ因神ト稱シ。有限ノ吾人ヲ開發シテ、無限絕對ノ効能ヲ發現セシメタルモノヲ果神ト稱ス。左レバ、因神ハ體質トシテ、全部ナルベク、果神ハ効用トシテ、全能ナルベシ。而シテ有限即チ吾人ハ因果二神孰レニ對スルモ、或ハ体量

ニ於テ、或ハ効能ニ於テ、與ニ其一部分ナリ。是ヲ以テ無限(神)ノ方面ヨリ
スルトキハ、有限(神)ハ悉ク無限ニ吸収セラレ、又其有限ガ開發シテ無限
ニ至ルベキ資質ヲ具スルノ點(即チ數子ガ一母ト各々人タル)ヨリ見レバ神ト
人トハ敢テ異ナルコトナク、神ハ人ニ含蓄セラレ、人モ亦神ニ具セラレ
之ヲ神人互具ト云フ。

人^二荷モ神ヲ具セザルトキハ、無ヨリ有ヲ生ズベカラザルヲ以テ、如何ニ
良機良縁ニ遇スルコトアルモ、如何ニ開發ヲ勉ムトセンモ、遂ニ無限ニ到
着スル能ハザルベシ、而シテ神モ亦人ヲ具セズンバ何ゾ萬徳全能ナル
コトヲ得ンヤ。故ニ神人固ヨリ互具ニシテ不二ナリト雖モ、亦其間ニ分滿
ノ差異ナキヲ得ス、神ハ開展シテ全質ノ活動ヲ逞フシ、人ハ凝固シテ一
部ノ活動ヲ呈スルニ過ギザレバ、之ガ現實上ニ於ケルノ効能質量ハ神
人全ク雲泥ノ差異アリテ、之ヲ不異而不同、不二而二ト謂フベキナリ。今
因果兩神、及人トノ相互ノ關係ニ就キ左ニ到著セル圓錐體ヲ以テ之ヲ
解會センニ



上圖ノ如ク因無限神ハ、實體ノ全部ニシ
テ、有限人ハ其垂下尖頭點ナル活動作用
ノ狹隘ナルヲ示シ、果無限神ハ開展セル
底面ノ普遍ナル部分ニシテ、効能ノ平等

普滿ナルヲ現ハセル者ナリ。而シテ此果神(果無限神)タリ、將タ有限人ノ内容
タル實體ハ、共ニ同一ナル因無限神ナリトス。又之ヲ例スルニ一布ノ全
質ハ因無限ニシテ、其表面ノ美ナルハ果神ノ如ク、裏面ノ麗ナルハ有限
ト同シカルベク、而シテ其布質ガ縱横ノ糸ナルハ、因無限ノ體質ガ、物心ノ
各元素ナルニ均シ、次ニ又或菓物ノ体ハ、因無限ニシテ、其未熟或ハ半熟
ナルハ有限ニ類シ、其成熟ハ、果無限ナルベクシテ、其體質ニハ異ル所ナ
キモ、自ラ食非食ノ差アリテ、其効能ヲ別ニスルガ如シ。今茲ニ、吾人ハ尙
ホ此三者ノ關係ヲ設問、解會センニ

一、有限ノ統合ガ、因無限ナルノ理。
現象即實體。前例ヲ以テスレバ布ノ他ニ糸ナク、糸ノ他ニ布ナキ

ガ如シ。

二、有限ト、果無限ガ、同一体ナルノ理。

玉ト璞トノ如ク、又熟果ト不熟果トノ如シ。

三、有限ト、果無限トノ内容ガ、均シク因無限ナルヨリ生ズル理法。

善惡本具俱有、神人互具一如、

四、因無限、有限、果無限ノ三者ノ相關。

体、相、用、

五、有限ガ、因果兩無限ニ對スルノ情勢。

| | | | |
|----|-------|-----|----|
| 無限 | 体質、全部 | 因無限 | 部分 |
| | 效能、全部 | 果無限 | 部分 |
| | | | 有限 |

六、因無限ノ性格、實質。

性格ハ、不生、不滅、不増、不減、不去、不來、無始無終、本有常住。

實質ハ、物心、二元ニシテ、之ヲ分解スレバ、數十ノ元素トナル。

七、有限ノ轉變生滅ト、因無限ノ本有常住トノ關係。

有限ノ生滅ハ、位置形狀ノ轉換ニシテ、無限内部ノ衝動、無限ノ本有ハ、物質不滅、勢力恒存ノ理、不生而生、生而不生ノ義、之レヨリ發ス。

八、有限人ニ果神性アル意。

樹心ノ花性、璞玉ノ濫光

九、果無限ノ多數ナルモ、互ニ無碍涉入シ、相互主伴トナリテ、均シク各自ノ無限ヲ損ゼザル義。

萬燈ノ光線互ニ涉入シテ無碍ナルガ如シ。

十、有限ノ果無限ニ進ム理。

進化ノ理法、……………宗教。

第貳節 自力論、他力論

有限ノ吾人ガ、無限ノ果神ト同化スルニ二途アリ。而シテ其一ハ、自己具
有ノ諸徳ヲ開發シテ、他ノ一切ヲ自己ニ吸收融和セシメ、以テ絶對無限
ニ到達セントスルモノニシテ、之ヲ自力ト云フ。他ハ、自己開發ノ困難ヲ

省キ、既成ノ果神ニ自己ヲ攝収融化セシメラレテ、絶對無限ニ到ラントスルモノニシテ、之ヲ他力ト云フ。

夫レ神ヲ自己ニ具有視スルト、別在視スルトニ關セズ、果神ヲ目標トシテ、各自ノ宗教的希望ヲ達セントスルハ、自力、他力俱ニ同一差異ナキ所ニシテ。苟モ果神ノ存在ヲ否認シ、若クハ其ヲ目標トスルニ足ラズトセシカ、他力ノ根底ハ、忽チ顛覆スルト同時ニ、自力ノ目的希望モ、亦全く散乱シ、從テ宗教ノ組織ハ、茲ニ忽チ瓦解スベキナリ。蓋シ果神ナケレバ、其引攝者ナキヲ以テ他力ノ頼ムベカラザルハ固ヨリ、又自力ト雖モ、吾人以前ノ悠久ナル人生ニシテ、一人ノ此果無限ニ到達セシモノナシトセシカ、吾人ノ開發モ、亦一ノ疑問ニ屬シテ、成否未ダ俄ニ判ス可ラザルモノアラン。然ルニ之ニ反シテ、吾人ハ其開發ノ結果、能ク果神ニ達シ得ベキモノナリト決定シタランニハ、既ニ吾人以前ニ之ヲ實行シタル先進者アルベキハ首肯シ得ル所ニシテ、論ジテ是ニ至レバ、必ズヤ先覺ノ果神アルコトヲバ自力他力、共ニ確認セザルベカラザルヤ明ケシ、且ツ又

既ニ先覺果神アルコトヲ確認セル上ハ、勢ヒ果神自然ノ本能トシテ、引攝加被ノ力アルヲモ許サザルベカラズ。

要スルニ自力ハ、時間的伏安開果ニシテ、他力ハ、距離的進接歸果ナリトス。然リ而シテ自力ハ、神ヲ自己ニ具シ、他力ハ自己ヲ神ノ加被力中ニ具セラル、ヲ以テ、長時間、長距離モ、忽チ融合シテ、一念即到ノ理ヲ生ジ、三劫、十萬億土ノ如キモ、亦形式上ノ形容タルニ過ギザルニ至ル。之ヲ即身開果、即得同化ト云フ。

抑モ神ハ、其本能トシテ、毎ニ人ヲ自己ニ攝収セントシ、人ハ又、其自然ノ希望トシテ、毎ニ神ニ融和セントス、其神ノ人ニ對スル希望ヲ加被力ト云ヒ、人ノ神ニ對スル希望ヲ信仰ト云フ、又加被力ト、信仰トノ致一投合所謂入我我入、之ヲ感應ト云フナリ。蓋シ加被力ト信仰トハ、其主客ニ就テ分ル、ノ名稱ニシテ、必竟神人互ニ融和スル媒介力ヲ指スモノナリトス。次ニ又神ヲ含蓄的ニ觀ルトキハ、神ハ毎ニ解脱シテ、其無限自在ヲ逞フセントテ、吾人ヲ刺擊誘導シ、吾人ハ神ヲ開發誘引シテ、自在ヲ得ン

ト欲シツ、精進勤行ス、而シテ其誘導ハ加被ニ同ジク、精進ハ信仰ト異ナルナク、此誘導ト精進トハ相投合シテ終ニ自覺ヲ得、此自覺ナルモノハ即チ感應ト別ナルモノニアラザルナリ。

終リニ神人互具ノ理、及果神ノ存在ヲ認ムルモノヲ理的信仰ト云ヒ、破迷ノ智トモ云フ。此理的信仰ハ實ニ自力、他力、相共ニ必要ニシテ欠ク能ハズ、隨テ此理ヲ知ル者ハ、即チ已ニ神人一部ノ融和ヲ得タルモノナリ而シテ又其他力ハ、引攝信仰、自力ハ、開誘精進ヲ固メツ、終局ニハ神人全ク融和シテ普遍圓滿、自在萬能ナルコトヲ得ベキモノトス。特ニ又、此自力中ニモ他力アリ、他力中ニモ自力アタテ、互ニ主伴トナリ、以テ其成果ヲ速ナラシムベキト同時ニ、彼ノ加持祈禱ノ如キモ、亦此自他融通、入我我入ノ理ヨリシテ發生セルモノナリトス。左レバ吾人ガ宗教上ノ目的ヲ達セントスルニハ、破迷ノ智力、加被ノ他力、信仰精進ノ自力具足セルヲ以テ、始テ其ノ全キヲ得タルモノト謂フベキ歟。

因ニ記ス、他力ハ、宗教ト倫理ト全然別立シ、宗教的信仰ノ他ハ一般ノ

倫理ヲ遵守スベク、自力ハ、宗教的動作、即チ精進勤行ノ中ニ、自ラ倫理的行爲ヲモ含蓄スルヲ常トス。而シテ此差別ハ自力、他力、教義ノ自然ヨリ發生スル所ニシテ、可否ノ議論ヲバ敢テ其間ニ挟ムベキモノニアラザルナリ。(後編調和論參照)

第參節 繪木論

宗教ノ客体タル神ノ代表物ナル繪像、木像ノ性質ハ、之ヲ二様ニ觀察スルコトヲ得、從テ其之ヲ禮拜スルニモ、亦自ラ二個ノ理義ヲ生ズベキモノトス。而シテ其性質上、一ハ果神各自ノ希望、及其功績ヲ表示スルモノニシテ、他ハ有限自己ニ具有セル諸德ヲ客觀ニ抽出表示スルモノナリトス。蓋シ吾人ノ内德、思想ニ繪木像ノ如キ、種々ノ動力存在スルト同時ニ、自己以外ニモ、亦彼ノ繪木ノ標示スルガ如キ勇威、悲智ノ活動力ノ存在シテ、吾人ガ毎ニ是等勢力ノ感化ヲ受クルコトノ大ナルハ爭フベカラザル所ナリ。次ニ又其禮拜ノ理由タルヤ、一ハ自己ノ心理ヲ開發シ、信仰ヲ喚起スルノ動機、他ハ自然的先覺ノ果神ヲ崇敬スル道德行爲ニシ

テ、一ハ彼ノ初學ノ教授ニ其心性ヲ開發センガ爲ニ標本ヲ用井、他ハ君
 父師長ニ肅然敬意ヲ缺クベカラザルニ同ジクシテ、繪木禮拜ノ必要ナ
 ルヤ言フ俟タズ。然レドモ今若シ此意ヲ誤ランカ、遂ニ或ハ意外ノ迷信
 行爲タルヲ免ルベカラザルニ至ランノミ。

更ニ一言スベキハ、宗教的行爲ニ於テ、吾人ハ其主神ヲ定メテ之ヲ禮拜
 スルヲ可ナリト爲サザルヲ得ズ。蓋シ多神ヲ禮拜スルハ、道德的ニ於テ
 不可ナキモ、其信仰上ニ在リテハ、自ラ信仰漫散ノ恐レナシトセザレバ
 若シ吾人ヲシテ同化ノ信仰ヲ深原ナラシメンニハ、勢ヒ一主神ナラザ
 ルベカラザルカ。且ツ夫レ果神融和ノ理ヨリスレバ、一即一切、一切即一
 ナルヲ以テ、一主神ノ禮拜ハ、悉皆ノ禮拜タルニ異ナラザルモノナレバ
 ナリ。

佛密教等ニテハ、六大能生、即事而真ノ理ヨリシテ、繪木亦有活應効驗
 ノ義ヲ説ケリ。(後編參照)然レドモ此ハ強テ茲ニ之ヲ解決スルノ要ヲ見ザ
 ルナリ。

第六章 宗教主体ト客体トノ同化ノ方法

第壹節 解脱論

宗教的解脱、即チ吾人ガ不可抗力ノ羈束ヲ免レテ、自在ヲ得ントスルニ
 ハ、先ツ自己ニ神ノ資質ヲ具有セルコトヲ覺悟セザルベカラザルト全
 時ニ、又果神ノ存在シテ、始終引攝ヲカメラルルヲモ信ゼザルベカラザ
 ルナリ。然レバ則チ吾人ガ、其解脱ノ目的ニ達センニハ毎ニ果神ニ對シ
 テ、歸命、禮拜セザルベカラザルコト固ヨリニシテ、其ガ一念歸命ハ、理信
 仰ニシテ主觀ニ属シ、又其禮拜ハ、事信仰ニシテ客觀タルベキナリ。

斯クテ吾人ハ、又更ニ一方ニ在リテハ、常ニ宗教的動作ヲ精進シテ、自己
 具有ノ神ヲモ開拓セザルベカラズトス。而シテ今、其宗教的動作ノ主要
 ナルモノヲ、左ニ掲ゲンニ、

懺悔、安慰、誓願、宗教的慈悲

懺悔ニハ理事ノ二別アリテ、大凡罪惡ナルモノハ、對他ノ煩悩ヨリ起ル
 モノナルガ、其人生ノ本源ヲ尋ヌルニ、必竟同体同源ナレバ、愛憎、怨恨、貪

瞑等ヲ其間ニ挾ムベキ理由ナキコトヲ覺悟臆念スルヲ理懺悔ト謂ヒ又自己ノ罪惡ヲ他ニ自白シ、或ハ禮拜ヲ以テ神ニ謝シ、其改善ヲ誓フガ如キヲ事懺悔ト謂フ。

要スルニ懺悔ハ、主觀、即チ自己ノ心裡ニ於ケル罪惡ノ印象ヲ洗滌スルト同時ニ、客觀、即チ社會及神人ニ對シテモ、亦其罪障消滅、若クバ之ヲ輕減スルコトヲ得ベキモノナリ。且ツ懺悔ハ多ク改善償還ノ爲メ、吾人ヲシテ自ラ慈善奮勵ノ動作ヲ發起セシムルモノナレバ、其効果、決シテ少小ナルモノナラズシテ、宗教、倫理何レモ、之ヲ獎勵セザルハナシ。

安慰トハ、人ノ精神ノ活動ヲ調和スルノ謂ニシテ、吾人有情ノ衆生ハ、或ハ怨恨、或ハ瞋恚、或ハ悲憂、或ハ悅樂等心界ノ紛乱甚シク、爲メニ心情ノ過敏、若クバ萎靡ヲ來タスモノナレバ、平常慎ミテ、始終心界ノ平衡ヲ失フコトナカラシメ、以テ其安靜ヲ保タシメザルベカラズ。

因ニ記ス、安靜ト不熱心、不人情、無氣力等ハ、其外良ハ、大ニ相似タルモ其内容ニハ大差アリテ、一ハ活動ノ停止他ハ全ク心界ノ空虚ナレバ

ナリ。

誓願トハ、大凡是等ノ事ハ決シテ爲スマジ、或ハ此事ハ必ズ成就セン、若クバ遵守セントノ觀念ヲシテ、吾人ノ心裡ニ常恒不斷ナラシメ、以テ之ヲ實行シ、或ハ之ヲ實行セントスルノ謂ナレバ、即チソノ由テ來タルトコロ、全ク慙愧心ノ發動ニ出デタルモノト謂ハザルベカラズ。蓋シ慙愧トハ、宗教上倫理上、決シテ缺ク能ハザル所ニシテ、彼ノ克己ヲ以テ處世道德ノ要訣トセルカ如キモ、亦必克己心ハ、同ジク慙愧ノ念ヨリ發動シ來リテ、殆ンド誓願ト其趣ヲ同セルモノニ過ギズ。抑々慙愧トハ、吾人ガ一切ノ事物ニ對シテ、其性能ノ缺點ヲ軫念スル心界ノ警戒ナルガ、今此慙愧ヲ因トシテ、誓願克己、其他各般ノ美德ヲ發作スル次第ヲ列記セシニ、

- 一、吾人ハ、無限神ニ對シテ有限ナレバ、敢テ其教ヲ非議セズシテ、之ヲ遵守セザルベカラズ、——謙讓謹慎——誓願。
- 二、吾人日常ノ行跡ハ、時ニ神人ノ正道ニ違背セルモノアルヲ知ラン

左レバ吾人ハ大ニ後來ヲ反省警戒セザルベカラズ、—注意節制—
克己誓願

三、吾人ノ學問藝能全ク備ラズシテ、智徳未ダ足ラザルモノアラン、大ニ將來ヲ勉メサルベカラズ—奮勵勤苦—克己誓願。

四、吾人ノ信仰未ダ充分ナラズ、吾人ノ安心未ダ堅固ナル能ハズ、—慙愧ヨリ宗教的進取ヲ發動セシム—誓願。

五、吾人ノ善行ハ未ダ太多ナラズ、—慙愧ヨリ道德的進取ヲ發起ス—誓願。

要スルニ誓願トハ、吾人ノ主觀的ニ自己ノ不足ヲ觀ジテ、毎ニ進取ヲ策勵シ。其客觀的ニハ、五戒、十善等ノ如キ定憲ヲ立テ、堅ク之ヲ遵守遂行セントスル念願ノ決定、及其發動ナリトス。

宗教的慈悲、大凡人類ノ本分トシテ、慈悲同情ヲ缺クベカラザルハ、宗教上ニ倫理上ニ、同ジク其歸ヲ一ニスル所ナルモ、宗教的慈悲ト、倫理的慈悲トハ、其間ニ自ラ多少ノ根底ヲ異ニセルモノナキニ非ズ。今左ニ其要

ヲ舉ゲンニ、

一、一切ノ有限ハ、悉ク無限ノ一部分ニシテ、無限ヨリスレバ彼此互ニ一体ナリキ。是レ則チ同体大悲ノ觀念ヨリ發スルノ慈悲。

二、自己ヲ主トスレバ、他ノ有限ハ悉皆自己ノ伴トナリキ。是レ則チ他ハ悉ク自己ノ分子、自己ハ他ノ一切ノ本体ナリトノ觀念ヨリ發スルノ慈悲。

三、他ヲ主トスレバ自己ハ毎ニ其伴タルベキモノナリキ。是レ則チ他ハ自己ノ本体、自己ハ他ノ分子ナリトノ觀念ヨリ發スル慈悲ノ半面ナル所謂忍辱。

四、同体大悲ノ觀念ハ、宇宙一切ヲ包含スルカ故ニ、草木禽獸蟲魚ニ至ルマデ一視同仁タルベキノ慈悲。

倫理ハ、主トシテ人ト人トノ對等界ニ限ラレ、吾人相互ノ對峙存在ハ、相扶相頼ノ依立ナルヲ以テ、同情ヲ要スト爲テ正面ノ理由トスルモ、宗教ハ之ヨリ進テ同体的觀念、自他相互主伴的關係ヨリ慈悲ヲ要シ、其半面

ニハ、必ズ忍辱ヲ具スベキモノナリトナスナリ。
 夫レ人、苟モ斯ノ如ク一方ニハ果神ヲ以テ自己ノ到達スベキ目標ト爲シテ其功德加被ニ信賴シツ、罪惡ニ對シテハ懺悔ヲ行ヒ、常ニ自己ヲ安慰セシメテ、煩惱ノ發起ヲ防ギツ、又誓願ニ由リテ信仰ヲ固メ、慈悲ヲ以テ他ニ對シ、忍辱ヲ以テ己ヲ抑制シ。他ノ一方ニハ王法ニ遵ヒ、世道ニ應ジテ、以テ人世ヲ公正ニ經營シツ、終始一貫、敢テ懈怠アルコトナクンバ、即チ吾人ハ、念々刻々、神ト相接近シテ遂ニ終ニ全ク融和同化シ、一切不可抗力ノ羈絆ヲ脱スルコトヲ得ルニ至ラン。是ヲ之レ宗教的解脱トゾ謂フナル。

第貳節 靈化論

靈化トハ、吾人ガ宗教的解脱ニ從ヒテ現ハル對他ノ効能ヲ指スモノニシテ、縱令解脱ヲ得ルモ、其効能ヲ他ニ及ボスコトナクンバ、解脱モ亦太ダ貴カラザルナリ。左レバ解脱ト靈化トハ、必ズヤ共ニ相伴ハザルベカラザルノミナラズ、必竟解脱ト靈化トハ、同一事實ノ上ニ於ケル主客、即

チ對自、對他ノ區別タルニ過ギズシテ、其解脱ハ、自己ノ成羈束ヲ脱出スルノ事實ヲ指シ、靈化ハ已ニ其羈束ヲ脱スレバ、必ズヤ是ト相應スル効能アルヲ指セルモノニシテ、解脱ハ、即チ自証ノ智タル個人の方面、靈化ハ、即チ化他ノ悲タル社會的方面ヲ指スモノナレバ、或ハ靈化ハ、又之ヲ解脱必然ノ結果トモ稱スベシ。然リ而シテ又靈化ハ解脱ノ全部ヲ終ヘタル後ニ於テ、始テ發生スベキモノニ非ズ、其一部ノ解脱ハ、能ク一部ノ靈化トナリテ、所謂自証ノ智ヲ以テ化他ノ悲ヲ行ヒ、化他ノ悲ヲ以テシテ、却テ自証ノ智ヲ策勵シ、解脱ハ靈化ヲ得、靈化ハ解脱ヲ扶ケ、相互ニ能助所助トナリテ、漸次ニ積德進化シ、遂ニ以テ其滿果ニ達シ、妙用無窮ノ大自在ヲ得ルニ至ルモノナリトス。左レバ、解脱ノ實ト、靈化ノ用ト形影相伴ヒ、始テ真正ニ宗教ノ目的ヲ達スルモノナルヤ明ケシ。而シテ、此靈化タル之ヲ自己以上ニ及ボスヲ少キモノナルヲ以テ、其未ダ解脱ヲ開始セザル者、若クバ解脱ノ途ニ在リト雖モ、尙ホ其自己以下ノ程度ニ在ル者ニ對シテ、之ヲ應用セザルベカラザルハ勿論ナリ。是ヲ以テ之ヲ

觀レバ、彼ノ厭世的脱俗ノ如キハ、決シテ宗教ノ目的ヲ達スルノ道ニア
ラズシテ、如斯ハ宗教的天刑病ニ罹レルモノトヤ謂ハン。若シ夫レ自己
ヲ安慰スルガ爲メ、又ハ宗教々理ヲ研究スルガ爲メニ、一時俗界ノ繁累
ヲ避クルガ如キハ、敢テ不可ナル所ナキモ、是等ハ概シテ宗教々師ノ所
爲ニ屬シ、一般ノ信者ニ在リテハ、決シテ之ニ倣フベカラザルモノトス
因ニ記ス解脱、靈化ハ、山林ニ於テセザレバ、決シテ爲シ得ザルモノニ
非ズ、又脱俗セザレバ、必ズ遂ケ能ハザルモノニアラザルノミカ、抑モ
斯ノ如キハ、其一小部分ノ解脱タルニ過ギザレバ、苟モ吾人ニシテ解
脱靈化ノ功ヲ全ウセント欲セバ、必ズヤ凡俗ノ社會ニ於テセザルベ
カラザルモノアリテ存ス。是レ則チ自己ガ分々ノ解脱ヲ得ルト同時
ニ、其靈化ヲバ四圍ノ衆生ニ及ボシテ之ヲ自然ニ解脱ノ方面ニ導キ
從テ自己モ、亦其功德ニ由リテ以テ、次第ニ轉昇ス。是レ實ニ解脱靈化
ノ公道ニシテ、斯ノ如クニシテ以テ、始テ宗教ノ宗教タル眞價ヲ見ハ
スコトヲ得ベキナリ。彼ノ時勢ノ如何トモシ難キヲ知ルモ、尙ホ熱誠

勉メテ止マサリシ孔孟ノ如キハ、蓋シ此般ノ眞意ヲ得タルモノトコ
ソ謂フベケレ。(後編調和
論參照)

第七章 宗教々師

宗教々師トハ、彼ノ神職、僧侶等ノ如キ法教任務ヲ職責トセル一切ノ宗
教家ヲ指セルモノニシテ、此等宗教々師ノ本分、即チ其資格、義務等ノ主
要ナル點ヲ略述センニ、

- 一、宗教々師トシテハ、宗教上ノ理論ヲ知ラザルベカラザルト同時
ニ、又普通ノ智識ヲモ具有セザルベカラズ
- 二、宗教々師ハ、自己ヲ安慰ナラシムルコト、普通信者、即チ被教化者
ヨリモ、一層切ナラザルベカラズ。

附宗教々師ハ自己ヲ安慰スルガ爲メニ、觀行等ノ法ヲモ心得
ザルベカラズ。

- 三、宗教々師ハ、神ニ對スルノ儀禮ヲ慎重ニセザルベカラズ。
- 四、宗教々師ハ、其生活ヲ最モ單純ナラシメザルベカラズ。

五、宗教々師ニシテ、其妻子アル者ハ、特ニ自己ノ家庭ヲ修齊シテ他ノ範模タラシメザルベカラス。

大凡宗教々師ニ要スベキ特殊ノ資格タル斯ノ如ク然リ、然リト雖モ、其歸スル所ハ、真ニ教師自己ガ神ヲ代表シテ、信仰ノ燒點タルベキヲ期スルニ在リトス。抑々神ヲ代表センニハ、縱令大小アリトスルモ、其神ト同一的ノ資能、即チ包含性ト、加被力トヲ具セザルヲ得ズ。而シテ又其信仰ノ燒點タルベキ道ハ、先ヅ自己ニ信厚ノ信仰ヲ有セザルベカラサルヤ論ナク、彼ノ勸化、說法等ノ如キハ、一ニ宗教的理性ヲ開發スルニ過ギザレバ、百說千論モ、自己ノ深厚ナル信仰ヨリ發セシモノニアラザルヨリハ、決シテ其レガ真正ノ感化ヲ及ボスコト能ハザルモノナリトス。又彼ノ宗教上美的莊嚴ノ如キハ、一時敬虔ノ念ヲ喚起セシムルコトアルモ是ヲ以テ直ニ真ノ信仰ニ到レルモノト謂フベカラズ。左レバ斯ル勸説又ハ莊嚴ニ依リテ徒ニ信仰ヲ喚起増進セシメントスルハ、方便ト目的トヲ混合セルノ陋見ニシテ、時ニ感ハ却テ自己ノ不信、不能ヲ表彰スル

ガ如キノ感ナキニ非ザルナリ。

宗教々師ガ、宗教々理ヲ知ラザルベカラザルヤ固ヨリ論ナク、而シテ又普通ノ知識ヲモ具セザルベカラザル所以ハ、抑モ宗教ハ主トシテ哲學倫理、心理、教育、美學、法理等ノ諸科學ニ關連スルモノナレバ、勢ヒ是等ノ學科ヲモ參考トシテ、其概要ヲ明メザルベカラザルモノナリトス(後編 宗教 參照)

宗教々師ガ自己ヲ安慰スルコト、普通人ヨリモ一層切ナラサルベカラサルハ、自然ノ理ニシテ、未ダ自己ヲ安慰スルコト能ハサルニ、何ソ能ク他ヲ安慰セシムルコトヲ得ベケン。左レバ常ニ三毒五欲ヲ制シ、容易ニ區々ノ感情ニ左右セラレザルノ性行ヲ涵養セサルベカラズ(老莊ノ意 蓋シ茲ニ在リ)

宗教々師ガ、神ニ對スルノ儀禮ヲ慎重ニセサルベカラサルハ、最モ明白ノ理ニシテ、是レ自ラ、自己ニ對スル解脱、靈化、増進ノ動機タルト俱ニ又他ニ對シテハ、信仰ノ喚發、増進ノ媒介タルベキヲ以テナリ。

宗教々師ガ、其生活ヲ最モ單純ナラシメザルベカラサルハ、一見明ナル所ニシテ、抑モ教師ノ本分タルヤ、獨リ他ノ攝化ヲ爲スノミニ止ラズシテ、常ニ自己ノ解脱ヲモ増進セシメザルヘカラザルモノナレバ、特ニ其驕恣尊慢ヲ戒メ、以テ心身ノ安靜恬淡ヲ保ツベク、又其ノ居邸衣服什器等ノ如キ悉ク質素簡潔ヲ旨トシ、勉メテ華奢虚飾ヲ避ケサルベカラズ而シテ、又彼ノ飲酒肉食ノ如キハ強ヒテ之ヲ禁止スルノ要ヲ見サルモ飲酒ガ諸過ノ源トナリ、肉食ガ慾情ヲ熾ナラシメ、引ヒテ以テ種々ノ妄念ヲ誘發セシムルノ媒タルハ爭フベカラザル所ナレバ、假令全然之ヲ禁止セズトスルモ、亦大ニ節抑ヲ加エサルベカラザルヤ明ケシ。抑々衣食等ノ如キハ土地氣候及其民俗トニ由リテ相違アルベケレバ之ヲ一律ノ下ニ規スベカラサルハ勿論ナルベキモ、詮スル所宗教々師タル者ハ、各自ノ地方ニ於ケル一般ノ慣俗ニ比シテ、其生活ノ程度、一層單純ナラサルベカララストスルニ在リ(後編各論參照)

教法家ノ間ニ宗教々師ノ妻帯ヲ可否スル者アリ。然レドモ、其ガ妻帯ト

否トハ宗教ノ全局ニ影響スベキモノニアラザルノミカ、又僅少ナル宗教々師ノ妻帯如何ヲ以テシテ、社會人類ノ生殖上ニ重大ノ影響ヲ與ユルモノニアラズトス。若シ或ハ其妻帯ガ、解脱上ニ於テ或ハ宗教ノ目的上ニ於テ、種々ノ妨害アリトセンカ、其不可ナルベキハ固ヨリナルモ吾人ハ宗教々師ノ妻帯ガ、斯ノ如キノ妨害タルヲ信ズルモノニ非ズシテ寧ロ互扶相助ノ美、却テ宗教ノ目的ヲ達スルニ於テ、其便利ヲ感セズンバアラジ。然レドモ、亦一利アルノ所、自ラ一害ノ相伴フコアルハ免ルベカラザルノ數ナレバ、是等ノ夫婦的關係ガ、能ク修齊ノ家庭ヲ作り出シテ他ノ模範タルニ於テハ、其目的上ニ不利ナラザルヤ知ルベキモ、亦其ノ之ニ反シテ、或ハ相戾リ相虐グ、以テ其家庭ヲ修齊スル能ハザランカ又其家庭修齊妻子好合ノ稱スベキアルモ、深ク愛着セルノ結果、却テ與ニ共ニ宗教的墮落ヲナスガ如キノ弊害ナシトセザルナリ。要スルニ妻帯ノ可否ハ主トシテ人物問題事實論ニ属スベクシテ、眞ニ宗教上ノ理論問題ニ於テ喋々スルヲ要セザルモノトス。又妻帯ニ續キテ教師世襲

論ノ可否ヲモ發生スベキガ、吾人ハ宗教々師ノ子孫ガ、必ズシモ宗教師タラザルベカラザルノ理由ナキヲ認ムルト俱ニ、世襲論モ、亦妻帶論ト同ジク、其利害相伴フモノニシテ、必竟人物的事實問題タルベキモノナリト信ズ。

終リニ宗教々師タル者ハ、特ニ寛容ヲ尊ビ、假令罪惡者ト雖モ、妄リニ之ヲ排斥スベカラザルハ勿論、力メテ此等ヲ教養化導セザルベカラザルナリ、是レ蓋シ宗教ハ、其本源ニ於テ、彼ノ法政倫理ト相異リテ、自ラ寛容ナラサルベカラサルノ理アルヲ以テナリ、今左ニ其ガ相違ノ點ヲ表記セシニ

一、法政——惡人ヲ放棄ス、刑罰——強弱關係——壓伏——狹

二、倫理——(惡人ヲ改善セシム改善)——相對關係——勸戒——寬

三、宗教——(惡人ヲ教養ス)——(同体及主件又ハ本体ト)——絕對關係——化導——

最寬

左レバ宗教々師ハ妄リニ他ノ惡ヲ咎ムベキニアラズシテ、專ラ其教化

ヲ主トシテ、彼ノ威罰ノ如キハ、殆ンド之ニ關知スベキニアラサルナリ

(後編注)

因ニ記ス、世或ハ吾人ガ、宗教ノ本旨ハ教化寛容ニ在リテ、惡人ト雖モ妄リニ除外スベカラザルノミナラズ、寧ロ之ヲ教養セサルベカラズテフノ真意ヲ了解セズシテ、其ハ却テ惡ヲ勸ムル如キ危險アラント難ズルモノアルベケレド、茲ハ全ク杞憂ニ屬ス、若唯寛容ノミナランニハ、百中或ハ一二ノ斯ノ如キ危險ヲ生ズル恐アランモ、宗教上ニ於ケル寛容ハ、常ニ教化ト相伴フベキモノナルノミナラズ、人既ニ各々神ノ性ヲ具有シツ、所謂人皆良心アリトスレバ、則チ吾人ハ、彼罪惡者ノ寛容教養ヲ不可トセザルノミナラズ、若シ斯ノ如クセズンバ、濟度ノ目的ヲ達スルコト能ハズシテ、却テ其絶望ヨリ發スル幾多ノ危險アラシコトヲ恐ル。茲ニ又一言セザルベカラザルハ、昔時、彼ノ僧侶寺家等ニ於テ、罪人ヲ隱匿セシガ如キハ、吾人ノ所謂寛容ト似而非ナルモノナレバ、決シテ之ヲ混同スベカラズ。而シテ吾人カ茲ニ所謂寛容

教養トハ、現今感化事業及出獄人保護等ノ趣旨ニ相同ジカルベシトス。

第八章 宗教組織

夫レ宗教ニハ二方面アリテ存シ、一ヲ理論的宗教ト云ヒ、他ヲ實際的宗教ト云フ、而シテ實際的宗教ハ、又個人的方面ト、社會的方面トニ分レ其個人的方面ハ又對神的ト、對自的トニ分ル、モノトス。

抑々理論的宗教ハ、神ノ解釋、及神人ノ關係等ヲ論說スルニ由リ、勢ヒ哲學ヲ以テ其大部ヲ占メ、實際的宗教ハ、專ラ解脱同化ノ方法ヲ講スル人生ノ安全法ナレバ、則チ倫理ヲ以テ其多分ヲ占メラレキ。左レバ科學ノ方面ヨリシテ之ヲ觀察センカ、宗教ハ實ニ或儀禮、信條ヲ以テ、哲學ト倫理トヲ連結裝點セルモノナリト稱スベキモ、亦宗教ノ方面ヨリ之ヲ觀察センカ、哲學倫理ノ如キハ俱ニ宗教ノ内容タルニ過ギサルベキモノナリトス。

大凡宗教ヲ組織セントスルニ當リテハ、先ヅ宗教理論、即チ教理ノ討議

研鑽ヲ要スベキハ固ヨリナルモ、其既ニ組織セラレタルモノニ對シテ教師信徒タル者ガ、其當否ヲ批評スルハ、自ラ策ノ得タルモノニ非ズシテ、教師及信者ハ單ニ之ヲ信シ、且ツ信ゼシムルヲ以テ足レリトス。蓋シ神人同化ノ動機、解脱靈化ノ増進ハ、主トシテ信仰ノ實行ニ在テ、理論ノ可否ニアラザレバ、其理論上ニ於テ、多少ノ不完全アリトスルモ、宗教ノ目的ヲ達スルニハ甚シキ障礙ナキモノトス、斯ノ如ク夫レ宗教々理ハ之ヲ信ズルヲ以テ能事トナセドモ、亦其哲學ノ進歩ニ反抗シテ徒ニ守舊偏固ナルベカラサルヤ勿論ナレバ、宗教モ亦時々之ガ革進ヲ要スベキハ明ナリトス。吾人ハ今ヤ宗教ノ組織上ニ於ケル數箇ノ要綱ヲ擧ゲテ之ヲ略說センニ

- 一、 宗教々理ノ設定
- 二、 宗教々理ヨリ生ズル主神ノ設定
主神ヨリ教理ヲ生ズト爲スモ可ナリ
- 三、 宗教々理ヨリ生ズル守信條件

四、宗教的儀禮

五、教化ノ綱領

六、宗教々師ノ本分及其信者トノ關係

七、宗教々師ノ養成法、及其團體ノ組織、監督、布教等ノ社會的、法政的條項

抑々哲理的根底ヲ有セザル宗教ハ、理由ナキ信仰ヲ勸誘スル邪法迷教ナレバ、苟モ宗教ヲ組織セントスルニ當リテハ、必ズヤ其哲理的教理ノ欠ク能ハザルハ勿論、從テ又之ガ設定ヲ嚴密ニセザルベカラザルヤ明クシ。教理既ニ設定セラレナバ、其自然ノ結果、宗教上ノ主神ヲ生ゼザルベカラズ。或ハ又吾人ニ神ヲ具有視スルノ理ヨリシテハ、之ヲ客觀ニ抽出設定スルカ、若クハ其教主ヲ以テ直ニ主神トスルモ敢テ不可ナル所ナカルベク。畢竟其何レニ屬スルモ、宗教上ニ主神設定ノ必要アルヤ疑フベカラザルモノナリトス

宗教上ノ信ズベキ條件ト守ルベキ條件トハ、是レ自ラ其教理ヨリ發生

スルモノニシテ、其ハ明カニ五戒、十戒等ノ如キ條目ヲ立テ、教師信者各自ガ相互ニ尊信遵守スベキノ定憲ヲラシメザルベカラズ。(教師ト信者ト信條件ニ多少ノ差アルハ不可ナキモ成簡單ナルヲ可トス、然リ)

宗教上ノ主神ニ對スル崇敬ノ方法、即チ儀式禮法ナカルベカラザルヤ勿論ニシテ、其儀禮ノ嚴肅ト、簡明トヲ可トスルハ、自ラ説明ヲ要セザル所ナルベシ。次ニ又其攝化ノ方便トシテハ、如何ナル教化ノ法ヲ用井、如何ナル演述ヲ爲スモ不可ナシト雖モ、其教理上ニ於ケルノ綱領ハ、終始一貫ニシテ、敢テ齟齬スベカラズ、若シ然ラズンバ、則チ或ハ信仰ノ攪乱ヲ來スノ恐アラン。

宗教々師タルノ本分、及信徒トノ關係ハ、前ニ己ニ之ヲ略述セリト雖モ要スルニ其教師タル者ハ、毎ニ慎重敬肅果神の深厚ノ悲愛ヲ以テ其信者ニ對シ、從テ信者ヲシテ、其神ニ對スルガ如キノ觀念ヲ以テ自己ニ對スルニ至ラシメザルベカラズ。

最後ニ、宗教々師ノ養成、其團體組織、布教、監督等ハ、自ラ時勢ト法政トニ

隨伴セザルベカラザルノミカ、又特ニ歴史慣例ヲモ斟酌セザル能ハザル錯雜ノ關係ヲ有スルヲ以テ、則チ別ニ一編ヲ成スベク、獨リ此編ニ在テハ、單ニ其名目ヲ舉グルヲ以テ足レリトセン。(後編參照)

第九章 結論

吾人ガ五官識ノ作用、即チ音聲ノ屈折、名句文、或ハ物色、形狀等ニ由リテ日常知覺シ、目擊スル所ノ万有ノ現象ヲ總合セルモノハ、之ヲ宇宙ト稱シ、此統合体タル宇宙ノ外、敢テ一物ノ對立スルヲ許サズ、否寧ロ對立シ得ルノ理由ナキヲ以テ宇宙ハ實ニ絶對無限ナリトス。然リ而シテ此宇宙、及其分子タル万有ノ各各ハ、物心、即チ質礙アル各種ノ元素ト、無形ノ活動力トノ涉入化合セルモノニシテ、又其分子タル万有ノ轉變アルト同時ニ、其統合体タル宇宙モ亦自活セリ。斯ノ如ク宇宙萬有ハ、其形狀、位置ノ上ニ在テハ自ラ轉變活動スルモ、其体性元質ハ本有常住ニシテ、不生滅、不増減、不去來ナリキ。次ニ吾人モ亦宇宙ノ一分子ナレバ、其本質取テ宇宙ニ異ナル所ナク、均シク無限性ヲ具有スルヲ以テ、其之ヲ開展ス

ルトキハ無限ノ作用ヲ發揮スルコトヲ得ベク、要スルニ、宗教ノ目的トスル果神トハ、全ク吾人有限ヲ開發セル無限ノ活動力ヲ指スモノナリトス。是レ即チ神人具有ノ說ニシテ、以上ヲ吾人ノ宇宙觀、并ニ神ノ解釋トナス。

又吾人ノ無限性ナルモノハ、其性ノ自然トシテ、迷悟、眞妄ヲ俱具シ、必ズ善惡兩面的ナラザルベカラザルヲ以テ、吾人ハ吾人ノ活動如何ニ由リテ其位置ヲ昇降轉換スルコトヲ得。且ツ又吾人ノ本質ガ、善惡具有ナリトスレバ、敢テ汚濁ヲ厭フベカラズ、又強テ悅樂ヲ避クベキニアラズシテ、要スルニ吾人ハ、既開ノ無限果神ニ對シテ猶ホ有限不自在ナレバ、唯務メテ自他互ニ能助所助トナリテ、均シク無限ノ開展ヲ期スルニ在リ。是レ即チ善惡具有ノ說ニシテ、吾人ノ人生觀、及宗教主義モ亦正ニ斯ノ如キナリ。

又吾人ガ、日常作爲スル所ノ善惡業ノ勢力、即チ活動力ハ、展轉シテ幾百世ニ至ルモ、決シテ止ムコトナク、未來ハ現時ノ活動ニ具スルト同時ニ

現時ノ活動モ、亦幾百世ノ未來ナル時間ニ具セラル、ヲ以テ、吾人ハ毎ニ後世ニ對スルノ戒心ナカルベカラズ。是レ現未具有ノ說ニシテ、吾人ノ生死觀、及未來ノ解釋、正ニ斯ノ如シ。

又吾人ハ、理ニ於テ自己ニ神ヲ含蓄スルヲ覺知スト雖モ、其同化ヲ求ムルニハ、尊ク既成ノ果神ニ依頼シ、從テ又宗教行爲、倫理行爲ヲ現實ニヒシコトヲ勉メザルベカラズ。特ニ其自己ノ解脱、同化ヲ圖ラシムルニハ、勢ヒ他ヲモ伴ハザレバ、決シテ其完キヲ得ベカラザルヲ以テ、自証ノ智ヲ練磨スルト同時ニ、化他ノ悲ヲモ勉メザルベカラズ。是レ蓋シ自利利他、自力他力具有ノ說ニシテ、吾人ガ實行宗教觀、及即得成神ノ方法、正ニ斯ノ如シトス。

然レバ上來吾人ノ所說ハ、之ヲ具有圓融論、一体具存主義ノ調和二教ト稱スベキ歟。今又更ニ之ヲ歸納スレバ、吾人ガ宗教主義ノ要素ニハ、左ノ三種ノ觀念ノ實在スルヲ觀ル。

宇宙の實在—因神の方面

實體—**解脱**ノ原由—覺知—知的要求

人格的實在—果神の方面

因ニ人格神ヲ立ツルモノト異レリ—**脱解**ノ標目—信仰—情的要求

世間的實在—實行の方面

形相—**脱解**ノ方法—精進—意的要求

以上三要素ノ實在セザルモノハ、元ヨリ吾人ノ所謂宗教ナルモノニアラズシテ、其宇宙の實在方面ハ哲學ノ領域ニ屬シ、又其世間的實在ノ方面ハ全ク倫理道德ナルモノモ、哲學ハ宇宙、即チ自然ノ現象ニ對シ、又倫理ハ人間相互ノ關係、即チ人、及人ノ積集セル社會テフ現象ニ對スルモノナレバ、則チ宗教ハ、人ト宇宙トニ對セザルベカラザル自然ノ情勢ヨリシテ、勢ヒ倫理ト哲學トヲ合攝セザルベカラザルヤ明ナリトス。而シテ其之ガ合攝ノ連鎖タルヤ、人格的實在方面（人が無限ト同化ヒル）ナラザルベカラザル也。左レバ三實在ノ觀念ハ、宗教ノ組織上ニ一モ之ヲ缺クベカラ

ザルハ勿論、又三者ノ輕重、俱ニ相異ルナキヤ明カナルモ、今若シ宗教ノ門頭ヨリ之ヲ觀察センカ、人格的實在ヲ其中心トシツ、宇宙的、世間的ノ兩實在ヲ之ガ雙翼ト稱スルヲ穩當ナリトセン、然ルニ、其宇宙の實在ノ方面ヲ哲學ノ領分ナリトシテ、之ヲ奪却シ去ランカ、斯ル宗教ハ遂ニ、吾人ノ知的要求ヲ充クスコト能ハザル不完全迷信ノモノタラザルベカラザルベク、又若其世間的實在ヲ倫理ノ所有トシテ、之ヲ除去センカ其宗教ハ香モナク、臭モナキ形式的ノモノタルニ止マリ、何等ノ効果ヲモ奏スルコト能ハザルニ至ルベシ、次ニ又人格的實在方面ヲ虛妄假設ナリトシテ、之ヲ排斥センカ、宗教ハ實ニ何等ノ意義ナキモノトナルノミナラズ、從テ其名義ハ全然存在スルコト能ハズシテ、單ニ哲學、又ハ倫理ヲフノミニテ事足りヌベキ歟。抑々宗教ト、哲學ト、倫理トヲ判然區別シ去ラントスルガ如キハ、全ク三者ノ根底ヲ察セザルモノニシテ、假令之ヲ明瞭ニ區別シタリトテ、其實際ニ於テ何等ノ効益ヲモ認ムルコト能ハザルノミナラズ、時ニ或ハ却テ相互ノ衝突ヲ來スガ如キ弊害ヲ見

ルヲナシトセズ。要スルニ宗教ハ或ル信條ヲ、以テ哲學ト倫理トヲ巧ニ調和シ、其間ニ無限ノ大作用ヲ煥發セシメントスルヲ以テ其唯一本然ノ特質トナスモノナリトス。然ルヲ世間或ハ哲學ノ如キ變遷的ノモノヲ以テシテ、宗教ノ要素ニ包含セシムルハ、宗教政策上ニ不可ナリトナス者アルベケレド、是レ全ク扞礙ニ屬シテ、縱令宗教ガ變遷的ノ要素ヲ包含セリトテ、之ガ爲メニ其價值ヲ傷ケラル、コトナキノミナラズ、哲學的要素ノ變遷ハ、實ニ時々宗教界ノ催眠ヲ攪破シテ、之ヲ奮起セシムルノ良劑タルベキヤ爭フベカラズ。而シテ又宗教ガ、哲學的要素ヲ含ムト否トニ關セズ、哲學ノ變遷ハ、必ズヤ其影響ヲ宗教上ニ及ボサルヲ得ズシテ、哲學ノ變遷ト俱ニ、宗教モ、亦爲ニ始終革新發達ヲ爲セルヤ、疑フベカラズ。實ニ哲學變遷ノ事實ガ其宗教上ニ影響セルコト斯ノ如シトセバ、吾人ハ寧ロ其智的要求ヲ満足セシムル爲メ、哲學的要素ヲ宗教中ニ包攝セシムルヲ以テ得策ナリト信ゼサルヲ得ザルナリ(後編參照)

宗教原論終

明治三十四年三月二十一日印刷
明治三十四年三月二十日發行

宗教論第一編

全部五冊



著者 小野 藤太

東京市小石川區表町百〇九番地

發行者 岡村 又逸

東京市下谷區稻荷町二十一番地

印刷者 池田 宗平

東京市淺草區黑船町二十八番地

印刷所 東京並木活版所

東京市淺草區黑船町二十八番地

發行者 青 年 社

東京市小石川區表町百〇九番地

(電話番町六番)

宗教書新刊

井上文學博士其他六博士批評序文
童眞居士小野藤太先生著述

● 宗教編論 **宗教原論**

既成

紙數百二十頁 全壹冊 定價三十錢

● 宗教編論 **宗教各論**

近刊

紙數八百頁

神儒佛耶ノ各教各宗派ノ教理ヲ舉ゲ、之レヲ批評シタルモノ。全編二百余節六百項ノ大論也

● 宗教編論 **宗教法論**

近刊

紙數五百頁

宗教ト國家トノ關係、國家ガ宗教ヲ監督スヘキ程度方法、宗教ガ國家内部ニ於テ活動スヘキ範圍、寺院教會僧侶教師信徒團體本末等ノ相互ノ關係ヲ論シ、古來ノ慣例各國ノ法制ヲ引證シテ、井然タル宗教法理ヲ闡明セシモノ。宗教法制定ノ今日最モ緊要ノ著タリ、全論十三章百餘節。

● 宗教編論 **調和論**

近刊

紙數五百頁

● 第五編論

● 將來ノ宗教

近刊

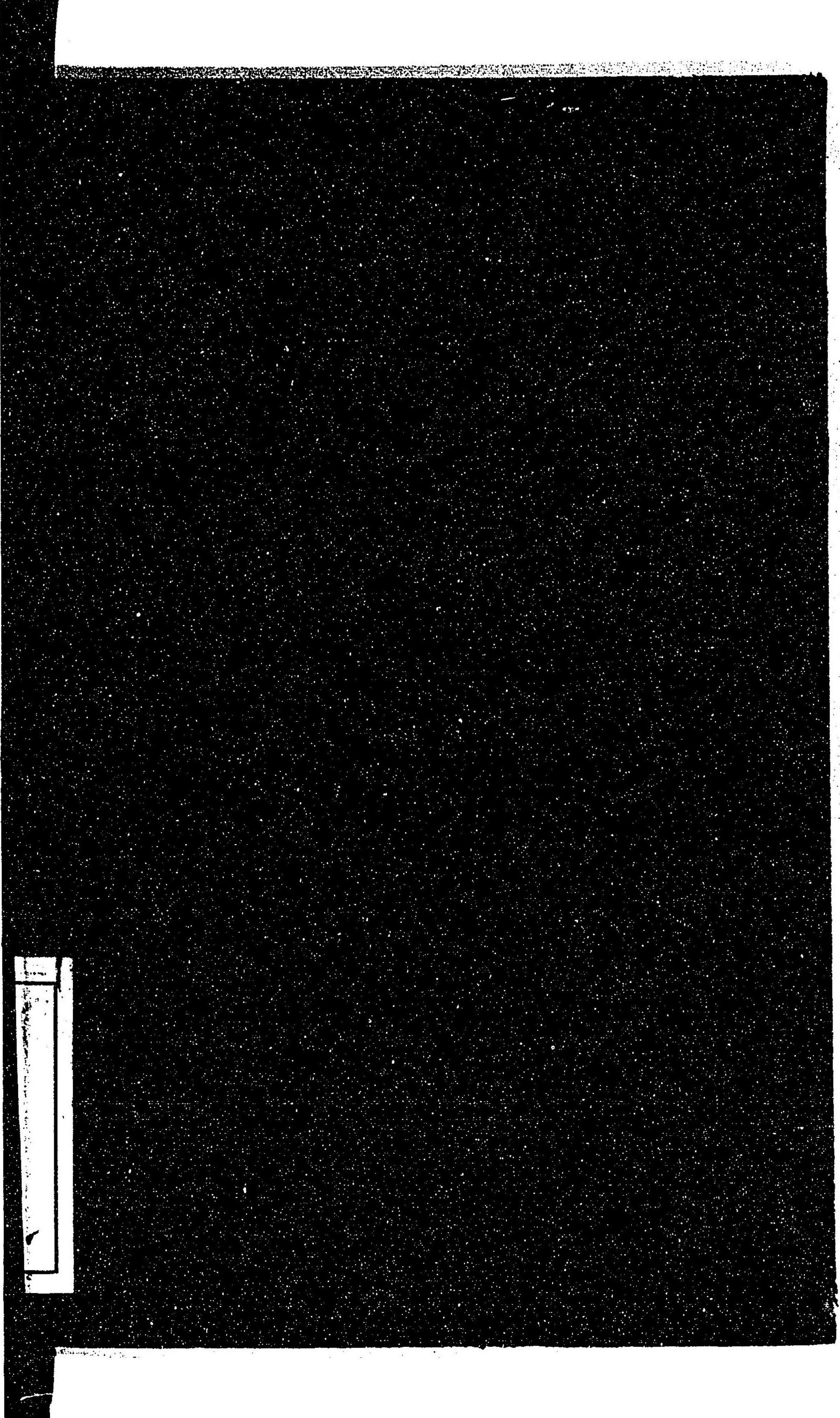
紙數五百頁

宗教ト倫理トノ相違スル理由及其互ニ調和スヘキ必要并ニ程度ヲ詳論シ、實ニ二十世紀ノ大問題ヲ解釋セシモノナリ。全論十六章八十餘節。

著者ノ自序ニ曰ク、宗教ノ根底本義ハ固ヨリ同一ナルモ、建國自然ノ趨勢ヨリ開展セル侵略建國の布教主義、則チ宗教ヲ以テ其俗ヲ奪フモノト、土着建國の布教主義則チ國体ト融和シテ其教義ヲ弘布スルモノトノ別アリ。吾人ハ外教ヲ恐レ忌ムモノニ非ラサルモ、其布教ノ慣例及發達ノ順序ハ、自ト東洋帝國のニ於テ適合セサルノ傾アリ。又人種の爭論ノ陋ナル、亡國病ノ性ナルハ勿論ナルモ、國家ナル區劃制度ノ益々鞏固トナル今日、國家自衛乃至世界的平和ノ必要上、サテハ又歐米諸國既ニ宗教革命ノ迫リツ、アル現勢ヨリスルモ、茲ニ調和的宗教醸成ノ要アルモノナリ。而シテ其調和ノ程度方法ハ本編ノ主トスル所、且之レガ遂行ハ机上ノ議論ヲ要セズ、我東西狂奔ノ實驗ヲ以テ自ラ之レニ當ラント。而シテ其跋ニ我精力ヲ此書ニ盡スコト二年、稿漸ク終ラントシテ病既ニ至ル。日暮レ道遠シトテ無限ノ歎ヲ洩シ。然レモ楠公ハ七生叛賊ヲ斃サント誓フ、我ハ百回人間ニ生レテ我所志ヲ貫徹センコトヲ期スト云ヘリ。以テ著者ノ抱負ト其自信ノ篤キ、又如何ニ此編ニ熱精ヲ注ガレシカヲ知ルニ足ラン、全論二十八章百余節。

一 全部五編ノ目錄ハ二錢郵券ヲ送レハ之レヲ贈與ス

81
613



1